

# 栄村 人口ビジョン 素案

(栄村の人口の現状分析)

平成 27 年●月

一般財団法人 長野経済研究所



## 目 次

<b>第 1 章 栄村の人口の現状分析</b> .....	<b>1</b>
1. 人口の推移 .....	1
(1) 総人口の推移 .....	1
(2) 地区別人口の推移 .....	2
2. 年齢別人口 .....	21
(1) 人口ピラミッド .....	21
(2) 年齢 3 区分別人口の推移 .....	22
3. 人口動態 .....	23
(1) 自然動態 .....	23
(2) 社会動態 .....	25
(3) 人口動態の推移 .....	28
(4) 産業別就業者 .....	29
<b>第 2 章 人口の推計</b> .....	<b>33</b>
1. 総人口・年齢区分別人口の推計 .....	33

# 第1章 栄村の人口の現状分析

## 1. 人口の推移

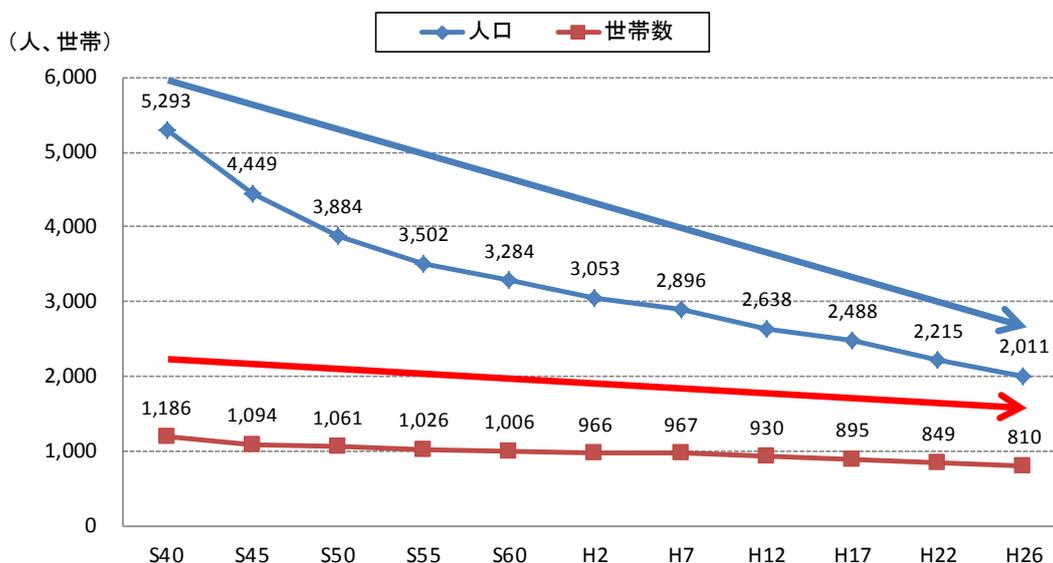
### (1) 総人口の推移

栄村の総人口は昭和40年(5,293人)以降減少が続いています(図表1)。直近の平成26年においては、昭和40年と比較して3千人以上(60%以上)減少していることがわかります。

また一方で世帯数についても減少が続いており、昭和40年と比較して平成26年は300世帯以上(30%以上)減少しています。1世帯当たりの平均人数も、昭和40年は4.46人で、昭和50年は3.66人、平成26年は2.48人と、減少傾向にあります。

つまり、単身世帯や核家族の割合が増加していると同時に、世帯そのものが減少しており、いかに村外から移住者を呼び込んで世帯数を増やしていくかが重要になります。

図表1 総人口及び世帯数の推移



(資料)総務省統計局「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」

(単位:人、世帯)

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
人口	5,293	4,449	3,884	3,502	3,284	3,053	2,896	2,638	2,488	2,215	2,011
世帯数	1,186	1,094	1,061	1,026	1,006	966	967	930	895	849	810

## (2) 地区別人口の推移

栄村の地区別人口は以下のとおりです（図表 2）。

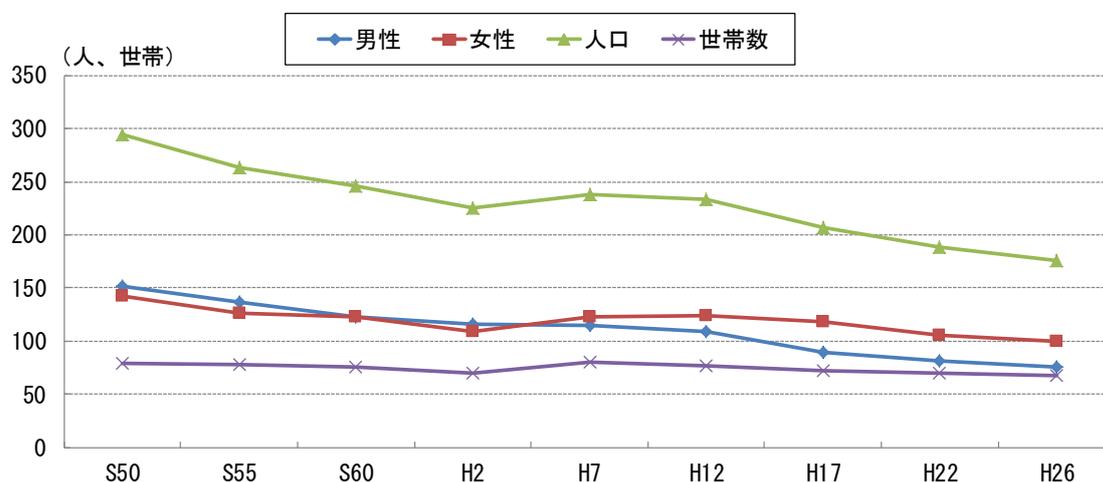
全体的に人口・世帯は減少傾向にあります。平滝地区や長瀬地区、切明地区のように人口・世帯ともに上昇している地区もあります。

人口・世帯増加の要因は、平滝地区の場合は特別養護老人ホームの開所によるもの、長瀬地区や横倉地区は村営住宅建設によるもの、切明地区は旅館経営者が住所を同地区に置いたことなどによるものです。

図表 2 地区別人口の推移

### ①白鳥地区

白鳥は、村で3番目に人口が多い地区であり、村の総人口の約8%を占めます。女性に比べ男性の減少が著しく、総人口では昭和50年に比べ約40%（118人）減少、世帯数も穏やかながら減少しています。



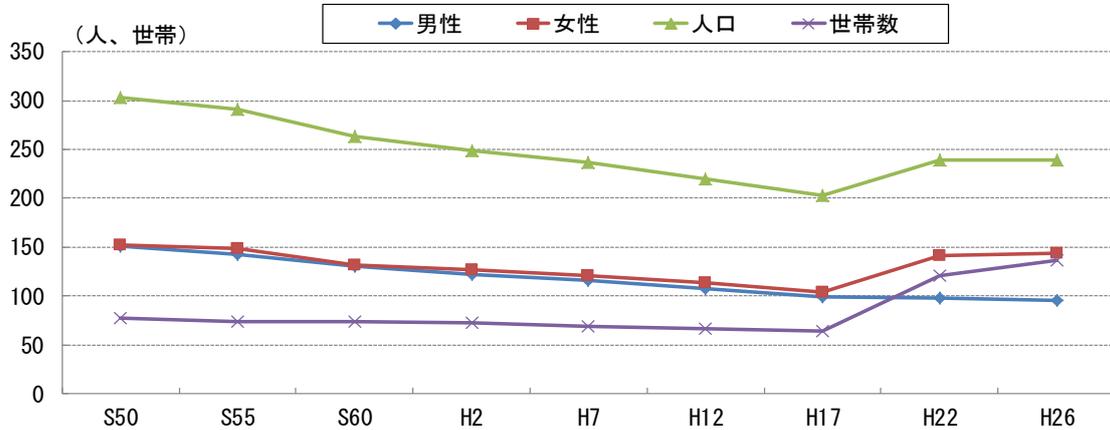
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	152	137	123	116	115	109	89	82	76
女性	142	126	123	109	123	124	118	106	100
人口	294	263	246	225	238	233	207	188	176
世帯数	79	78	76	70	80	77	72	70	68

## ②平滝地区

平滝は、村内で最も人口の多い地区であり、村の総人口の約 11%を占めます。人口、世帯共に年々減少を続けていましたが、平成 18 年 11 月、地区内に特別養護老人ホーム（定員 90 人）が開所したことにより人口が増加しています。利用者の約 9 割が世帯をここに置いているため、これを除くと人口・世帯とも減少が続いています。



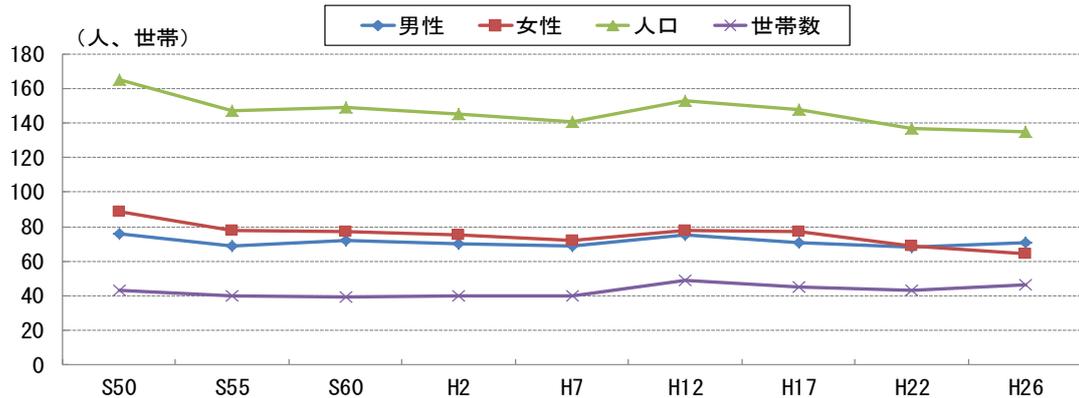
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	151	143	131	122	116	107	99	98	95
女性	152	148	132	127	121	113	104	141	144
人口	303	291	263	249	237	220	203	239	239
世帯数	77	74	74	72	69	67	64	121	137

## ③横倉地区

横倉は、村で 4 番目に人口が多い地区であり、村の総人口の約 6%を占めます。人口は減少傾向にあるものの比較的穏やかです。世帯数は昭和 50 年に比べ 7% (3 件) 増加していますが、これは平成 10 年に村営住宅横倉団地 (8 戸) が出来たためです。これまで女性が男性の人口を上回っていましたが、平成 22 年以降に逆転しています。



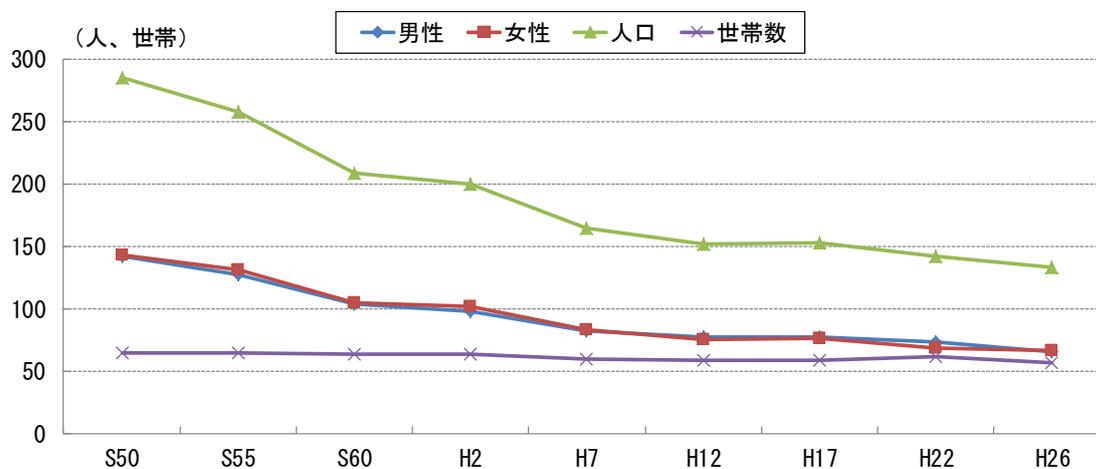
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	76	69	72	70	69	75	71	68	71
女性	89	78	77	75	72	78	77	69	64
人口	165	147	149	145	141	153	148	137	135
世帯数	43	40	39	40	40	49	45	43	46

#### ④青倉地区

青倉は、村で5番目に人口が多い地区であり、村の総人口の約6%を占めます。世帯の減少率は穏やかであるものの、総人口は昭和50年に比べ約53%（152人）減少と大きく変化しています。



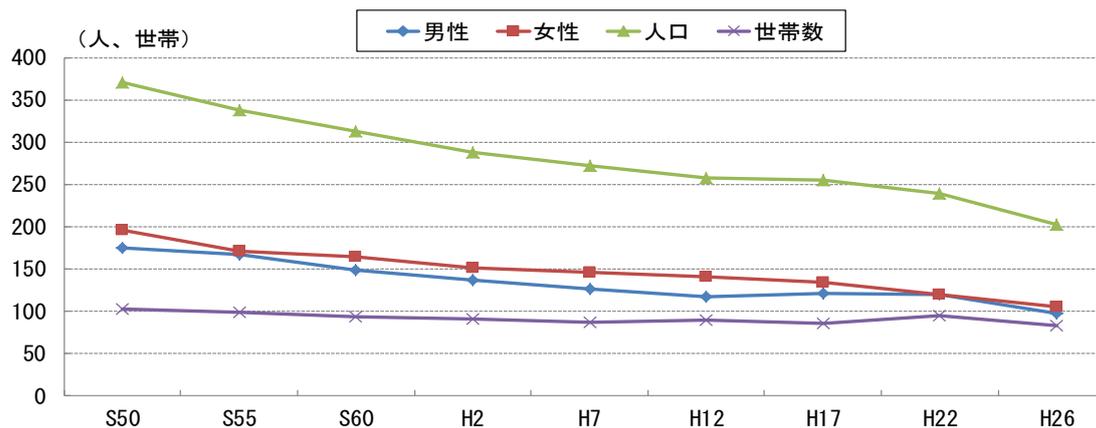
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	142	127	104	98	82	77	77	73	66
女性	143	131	105	102	83	75	76	69	67
人口	285	258	209	200	165	152	153	142	133
世帯数	65	65	64	64	60	59	59	62	57

#### ⑤森地区

森は、村で2番目に人口が多い地区であり、村の総人口の約9%を占めます。世帯数は、昭和50年時点では村で最も多い103世帯でしたが、現在では約20%減少し82世帯となっています。総人口も約45%（168人）減少と、大きく変化しています。長野県北部地震後の人口減少も顕著です。



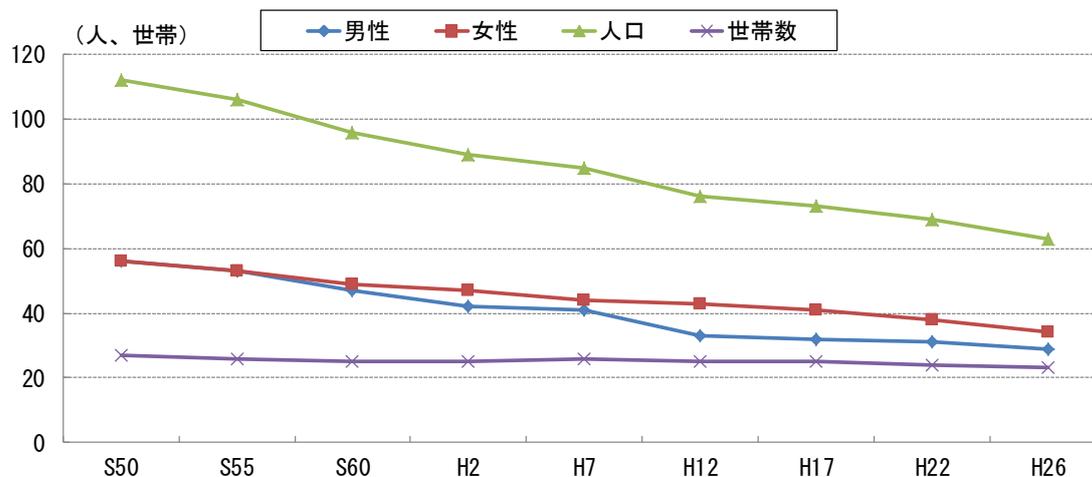
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	174	167	149	137	126	117	121	120	97
女性	196	171	164	151	146	140	134	119	105
人口	370	338	313	288	272	257	255	239	202
世帯数	103	99	93	91	86	89	85	94	82

## ⑥泉平地区

泉平は、人口数が村内で中位の地区です。世帯の減少率は穏やかであるものの、総人口は昭和 50 年に比べ約 44%（49 人）減少と大きく変化しています。



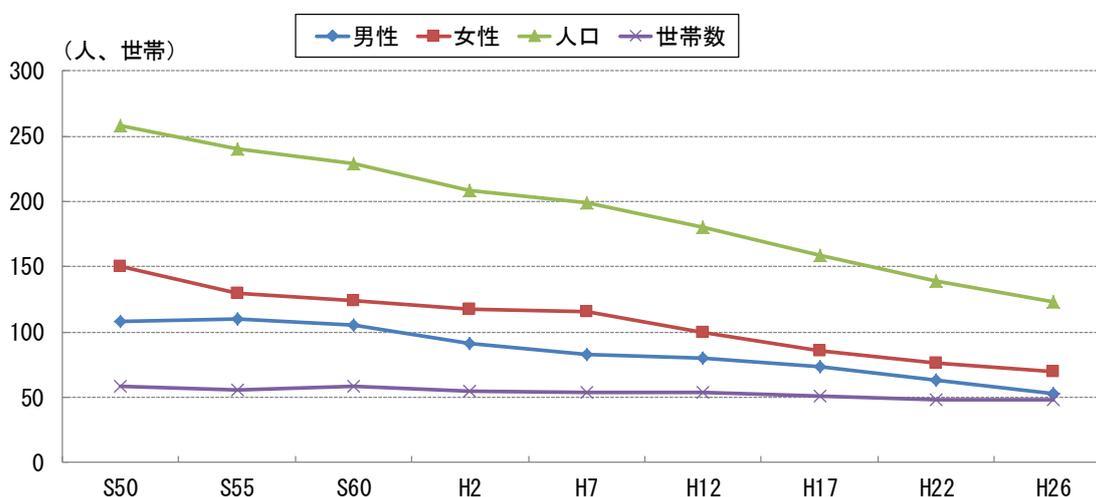
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	56	53	47	42	41	33	32	31	29
女性	56	53	49	47	44	43	41	38	34
人口	112	106	96	89	85	76	73	69	63
世帯数	27	26	25	25	26	25	25	24	23

## ⑦箕作地区

箕作は、総人口の約 6% を占める地区です。世帯の減少率は穏やかであるものの、総人口は昭和 50 年に比べ約 52%（135 人）減少と大きく変化しています。



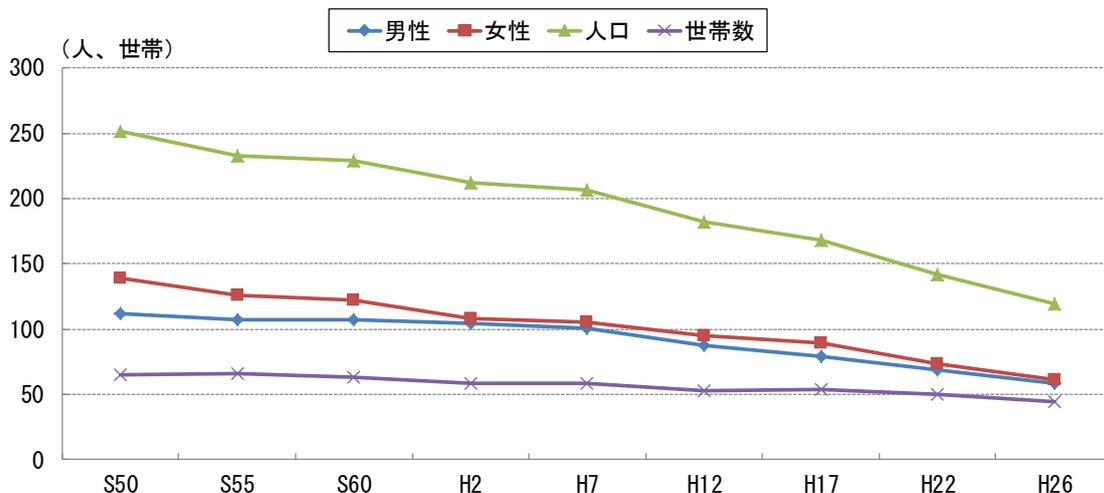
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	108	110	105	91	83	80	73	63	53
女性	150	130	124	117	116	100	86	76	70
人口	258	240	229	208	199	180	159	139	123
世帯数	58	56	58	55	54	54	51	48	48

### ⑧月岡地区

月岡は、総人口の約6%を占める地区です。世帯の減少率は穏やかであるものの、総人口は昭和50年に比べ約53%（132人）減少と大きく変化しています。



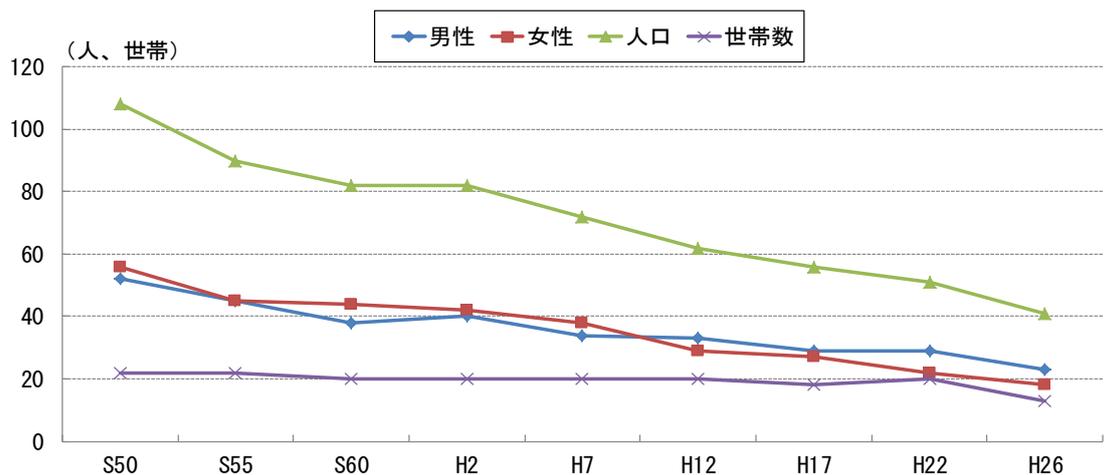
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	112	107	107	104	101	87	79	69	58
女性	139	126	122	108	105	95	89	73	61
人口	251	233	229	212	206	182	168	142	119
世帯数	65	66	63	58	58	53	54	50	44

### ⑨小滝地区

小滝は、比較的少人口の地区です。昭和50年に比べ総人口が約62%（67人）減少、世帯数が約41%（9世帯）減少と、共に大きく変化しています。長野県北部地震による転出も3世帯ありました。



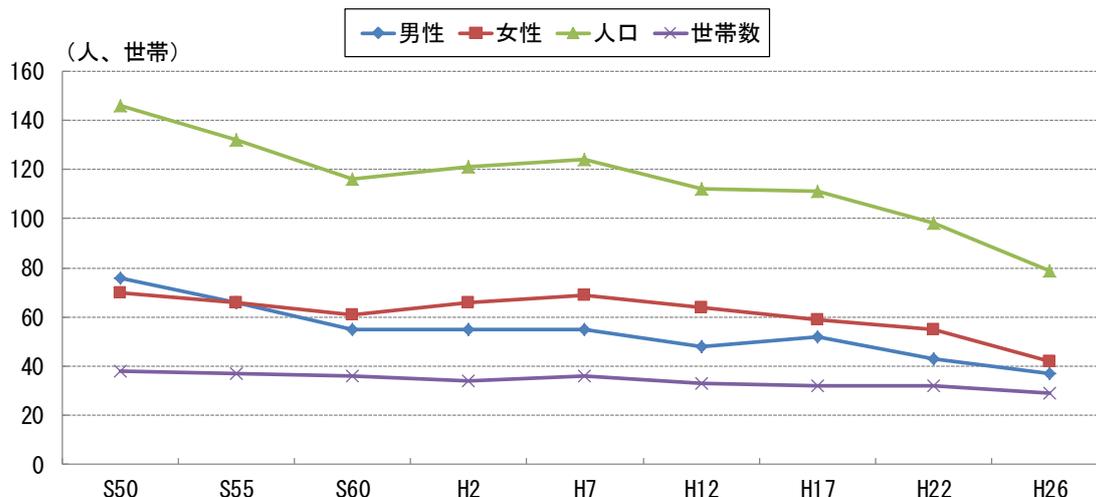
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	52	45	38	40	34	33	29	29	23
女性	56	45	44	42	38	29	27	22	18
人口	108	90	82	82	72	62	56	51	41
世帯数	22	22	20	20	20	20	18	20	13

### ⑩野田沢地区

野田沢は、人口数が村内で中位の地区です。昭和 50 年に比べ総人口が約 46%（67 人）減少、世帯数が約 24%（9 世帯）減少と、共に大きく変化しています。



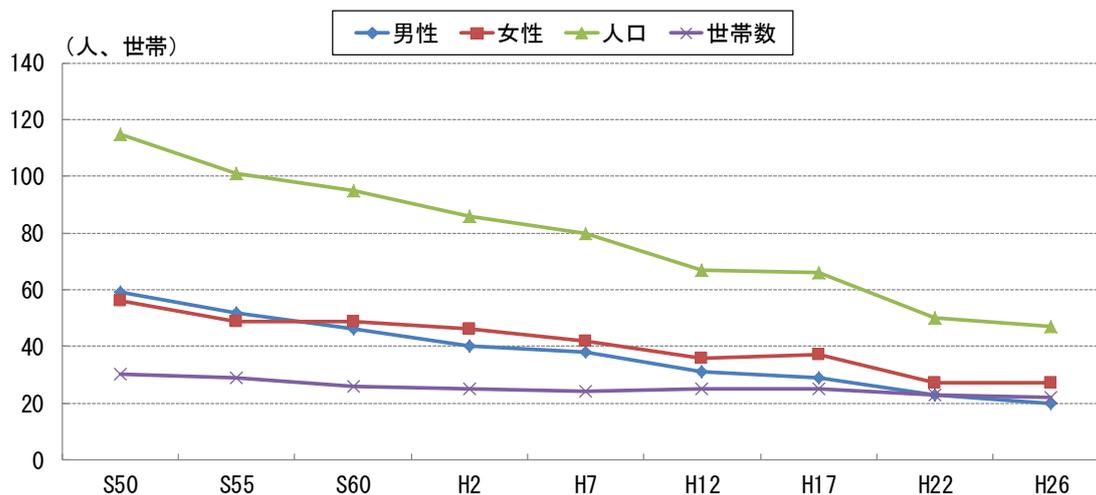
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	76	66	55	55	55	48	52	43	37
女性	70	66	61	66	69	64	59	55	42
人口	146	132	116	121	124	112	111	98	79
世帯数	38	37	36	34	36	33	32	32	29

### ⑪大久保地区

大久保は、人口数が村内で中位の地区です。昭和 50 年に比べ総人口が約 59%（68 人）減少、世帯数が約 27%（8 世帯）減少と、共に大きく変化しています。



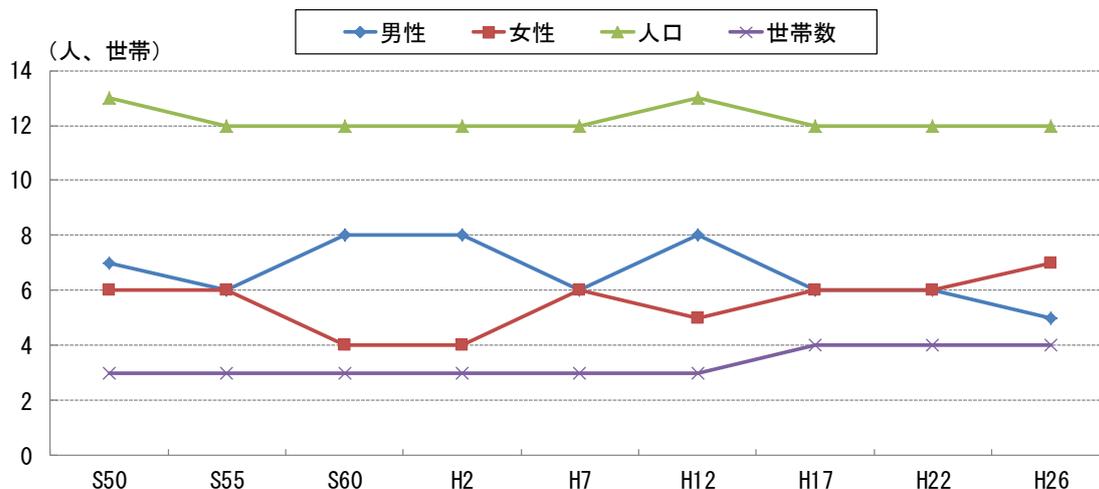
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	59	52	46	40	38	31	29	23	20
女性	56	49	49	46	42	36	37	27	27
人口	115	101	95	86	80	67	66	50	47
世帯数	30	29	26	25	24	25	25	23	22

### ⑫天地地区

天地は、村内では人口・世帯ともに少ない地区です。人口・世帯ともに昭和50年からほぼ横ばいとなっています。



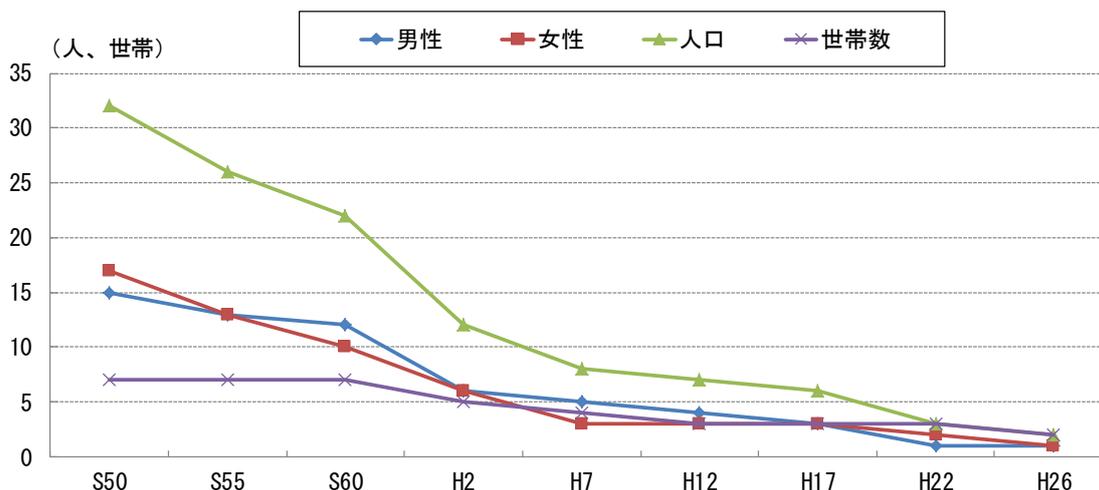
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	7	6	8	8	6	8	6	6	5
女性	6	6	4	4	6	5	6	6	7
人口	13	12	12	12	12	13	12	12	12
世帯数	3	3	3	3	3	3	4	4	4

### ⑬塩尻地区

塩尻は、村内で最も人口の少ない地区です。昭和50年時点では32人、7世帯でしたが、現在、住民登録は2名・2世帯で、実際住んでいるのは1名のみです。



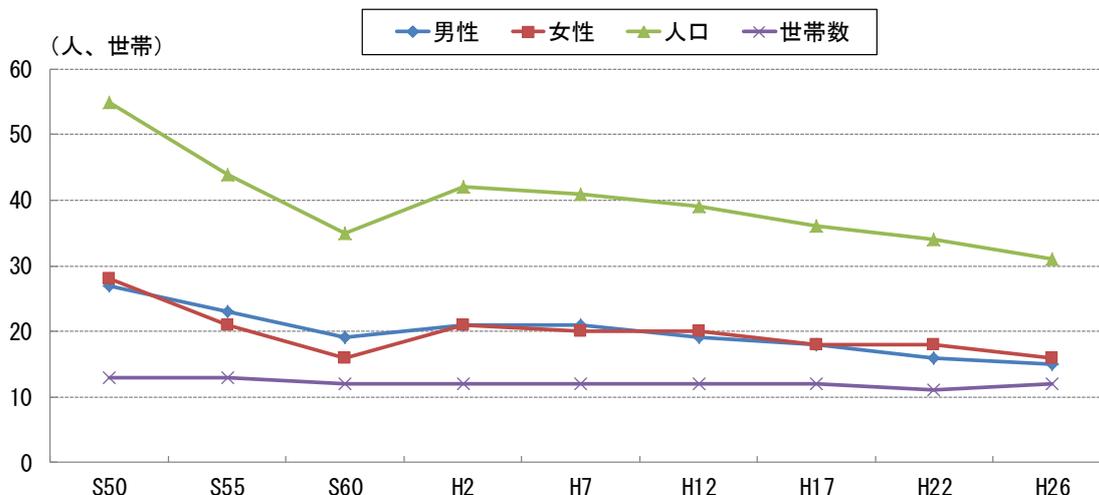
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	15	13	12	6	5	4	3	1	1
女性	17	13	10	6	3	3	3	2	1
人口	32	26	22	12	8	7	6	3	2
世帯数	7	7	7	5	4	3	3	3	2

### ⑭雪坪地区

雪坪は、村内では比較的少人口の地区です。人口は昭和50年から約44%（24人）減少していますが、世帯数は1世帯減少したのみで、ほぼ横ばいとなっています。



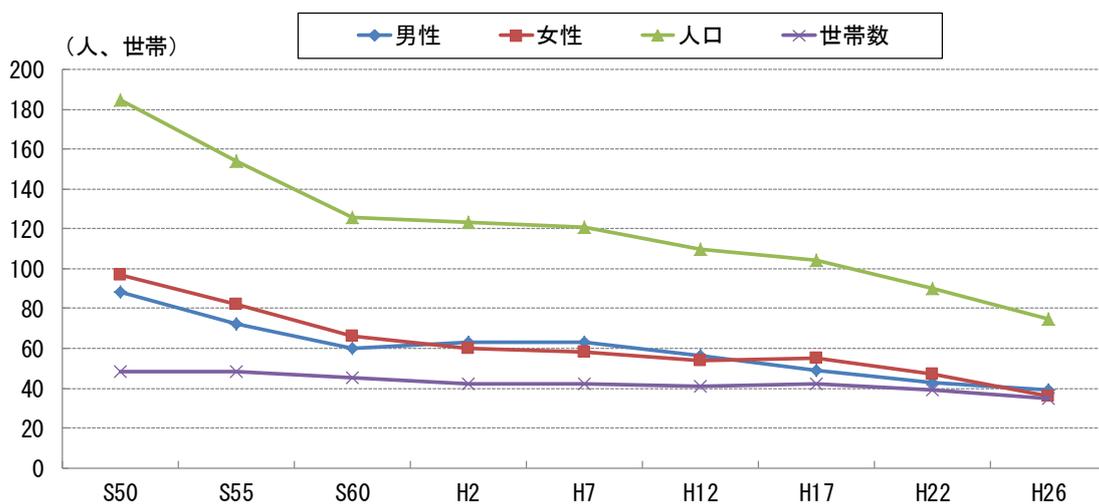
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	27	23	19	21	21	19	18	16	15
女性	28	21	16	21	20	20	18	18	16
人口	55	44	35	42	41	39	36	34	31
世帯数	13	13	12	12	12	12	12	11	12

### ⑮志久見地区

志久見は、人口数が村内で中位の地区です。昭和50年に比べ総人口が約60%（110人）減少、世帯数が約27%（13世帯）減少と、共に大きく変化しています。



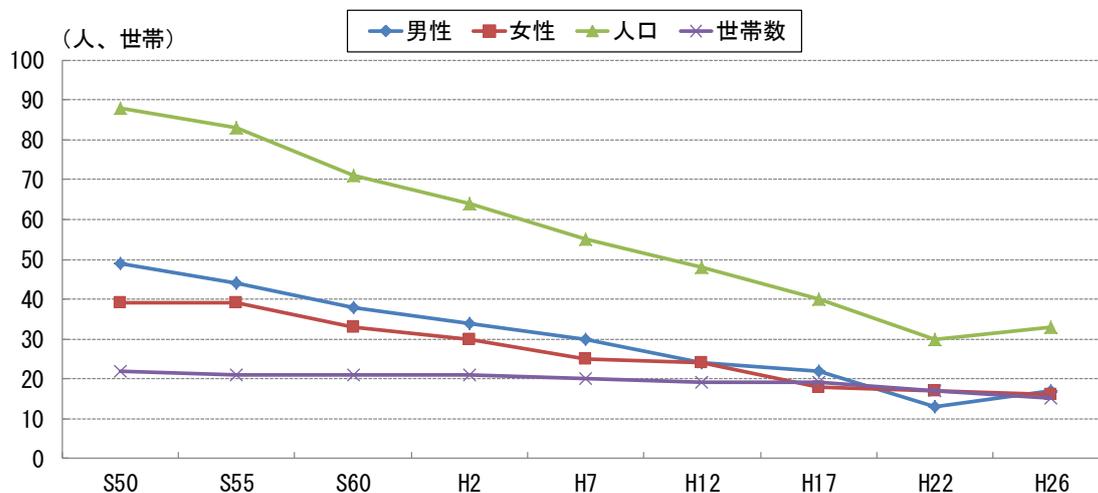
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	88	72	60	63	63	56	49	43	39
女性	97	82	66	60	58	54	55	47	36
人口	185	154	126	123	121	110	104	90	75
世帯数	48	48	45	42	42	41	42	39	35

### ⑩柳在家地区

柳在家は、比較的少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口が約 63% (55 人) 減少、世帯数が約 32% (7 世帯) 減少と、共に大きく変化しています。平成 22 年頃に男性数が上昇に転じ、総人口にも影響しています。



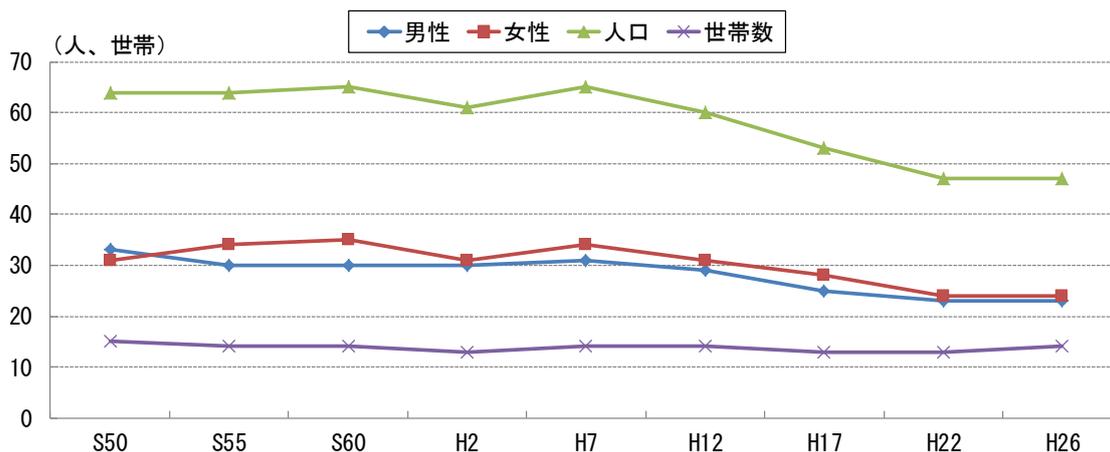
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	49	44	38	34	30	24	22	13	17
女性	39	39	33	30	25	24	18	17	16
人口	88	83	71	64	55	48	40	30	33
世帯数	22	21	21	21	20	19	19	17	15

### ⑪切欠地区

切欠は、人口数が村内で中位の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 27% (17 人) 減少、世帯数は 1 世帯減少と、変化は小規模なものに留まっています。



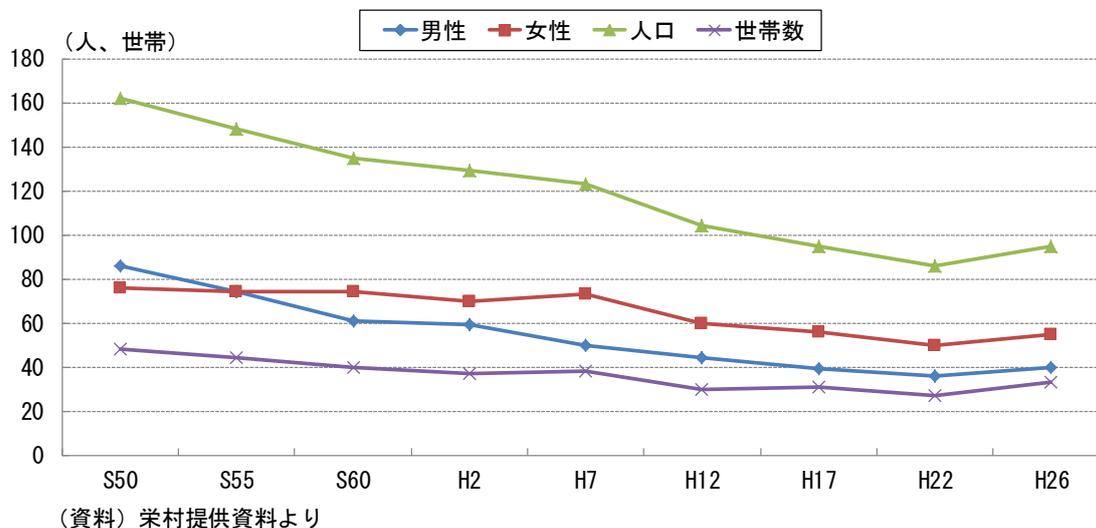
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	33	30	30	30	31	29	25	23	23
女性	31	34	35	31	34	31	28	24	24
人口	64	64	65	61	65	60	53	47	47
世帯数	15	14	14	13	14	14	13	13	14

### ⑩長瀬地区

長瀬は、昭和50年に比べ総人口が約41%（67人）減少、世帯数が約31%（15世帯）減少と、共に大きく変化しています。しかし、平成25年4月に村営住宅長瀬団地（6戸）が完成したことにより、世帯人口とも増加しました。

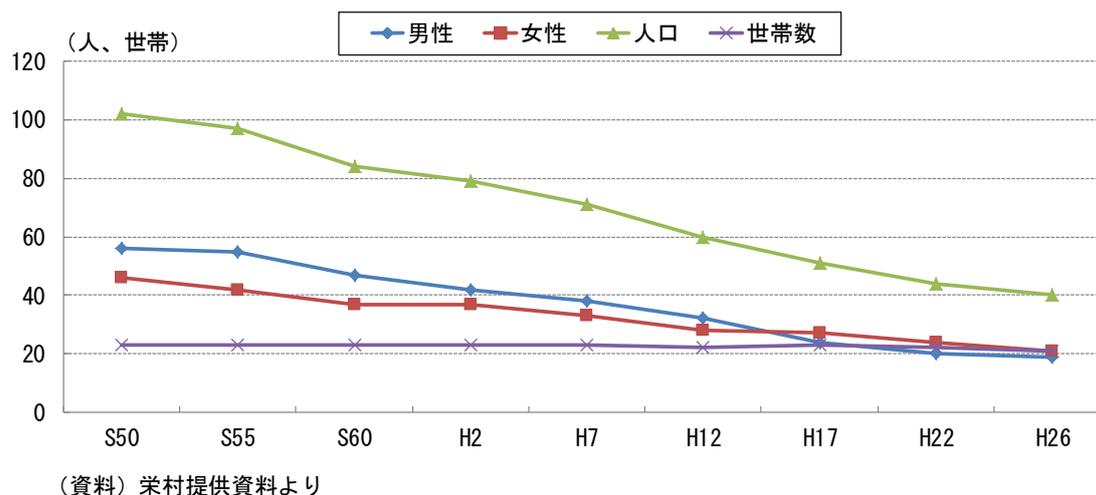


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	86	74	61	59	50	44	39	36	40
女性	76	74	74	70	73	60	56	50	55
人口	162	148	135	129	123	104	95	86	95
世帯数	48	44	40	37	38	30	31	27	33

### ⑪原向地区

原向は、比較的少人口の地区です。昭和50年に比べ総人口は約61%（62人）減少しているものの、世帯数は2世帯減少に留まっています。

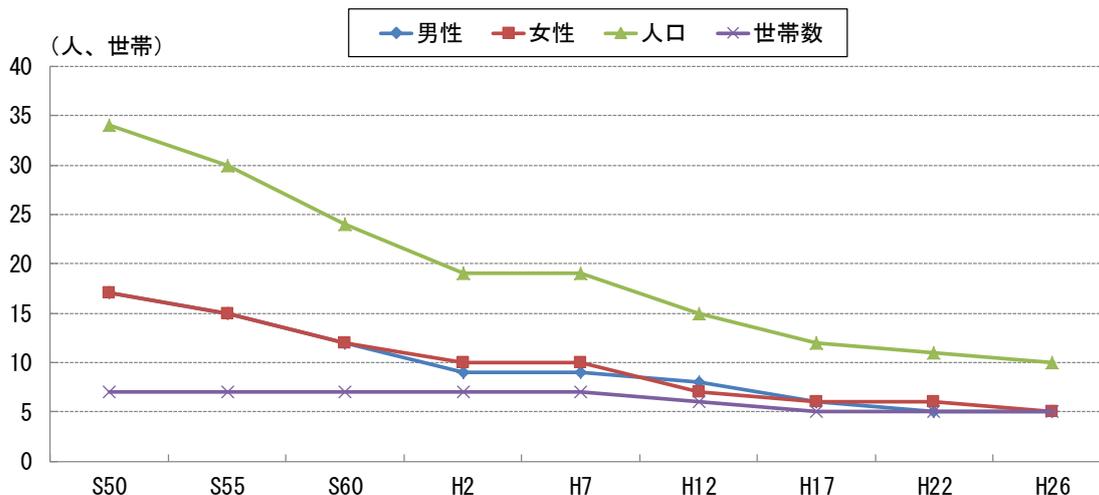


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	56	55	47	42	38	32	24	20	19
女性	46	42	37	37	33	28	27	24	21
人口	102	97	84	79	71	60	51	44	40
世帯数	23	23	23	23	23	22	23	22	21

## ⑩ 笹原地区

笹原は、村内で4番目に人口の少ない地域です。昭和50年に比べ総人口は約71%（24人）減少、世帯数は2世帯減少となっています。



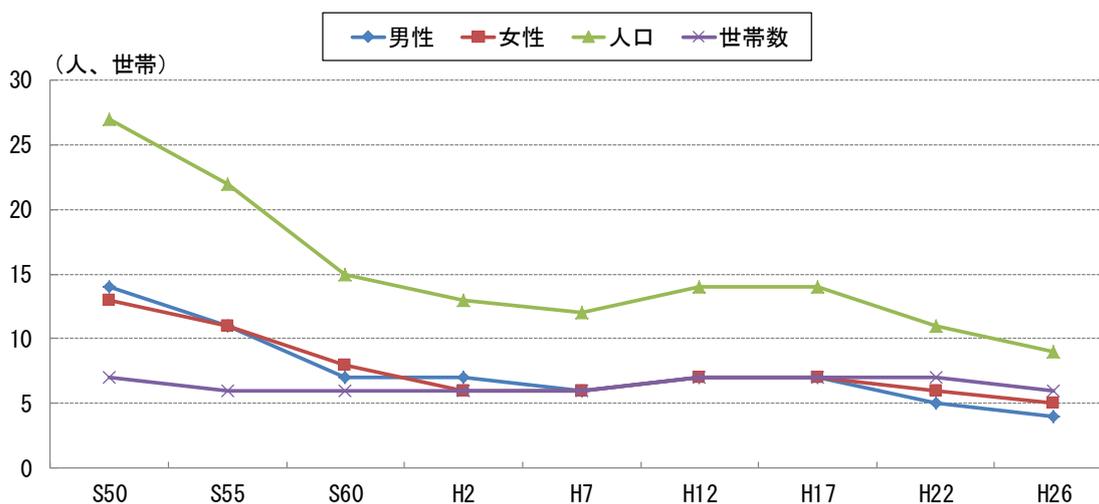
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	17	15	12	9	9	8	6	5	5
女性	17	15	12	10	10	7	6	6	5
人口	34	30	24	19	19	15	12	11	10
世帯数	7	7	7	7	7	6	5	5	5

## ⑪ 当部地区

当部は、村内で3番目に人口の少ない地区です。昭和50年に比べ総人口は約67%（18人）減少、世帯数は1世帯減少となっています。



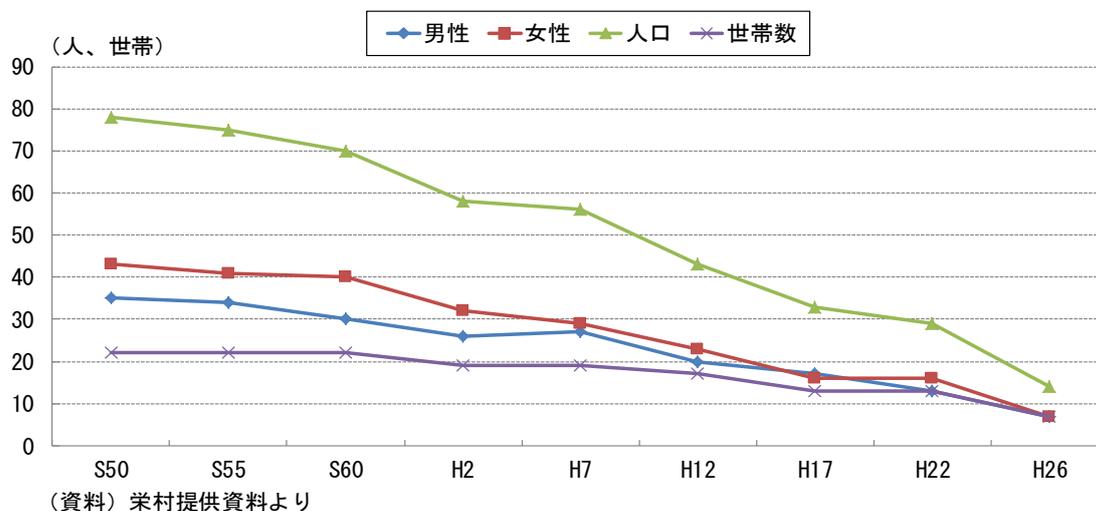
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	14	11	7	7	6	7	7	5	4
女性	13	11	8	6	6	7	7	6	5
人口	27	22	15	13	12	14	14	11	9
世帯数	7	6	6	6	6	7	7	7	6

## ⑫坪野地区

坪野は、比較的少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 82%（64 人）減少、世帯数は約 68%（15 世帯）減少と、大きく変化しています。特に長野県北部地震以後、6 世帯、15 人が減少し、地震の影響を強く受けています。

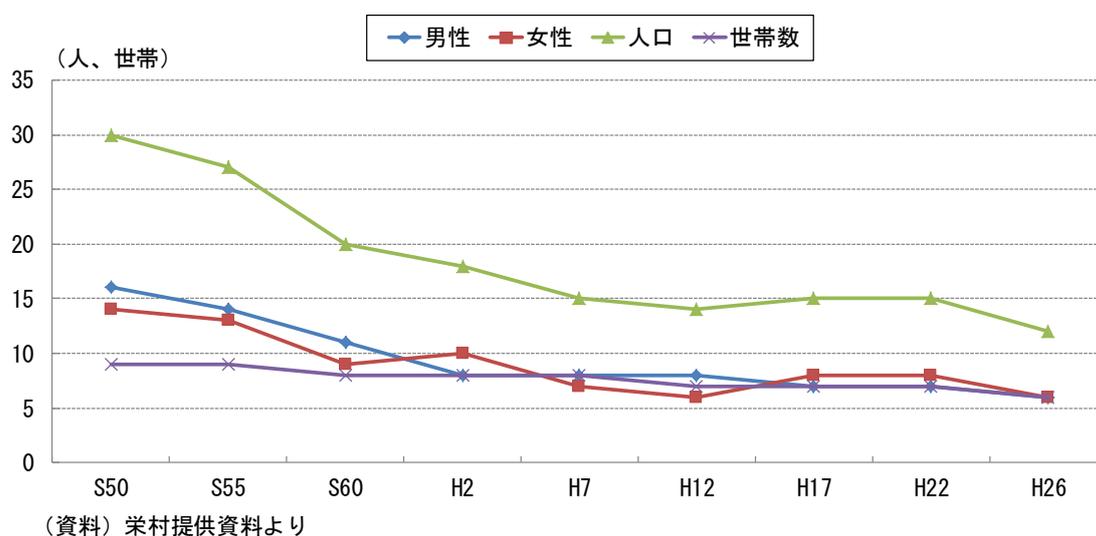


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	35	34	30	26	27	20	17	13	7
女性	43	41	40	32	29	23	16	16	7
人口	78	75	70	58	56	43	33	29	14
世帯数	22	22	22	19	19	17	13	13	7

## ⑬天代地区

天代は、少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は 60%（18 人）減少、世帯数は 3 世帯減少となっています。

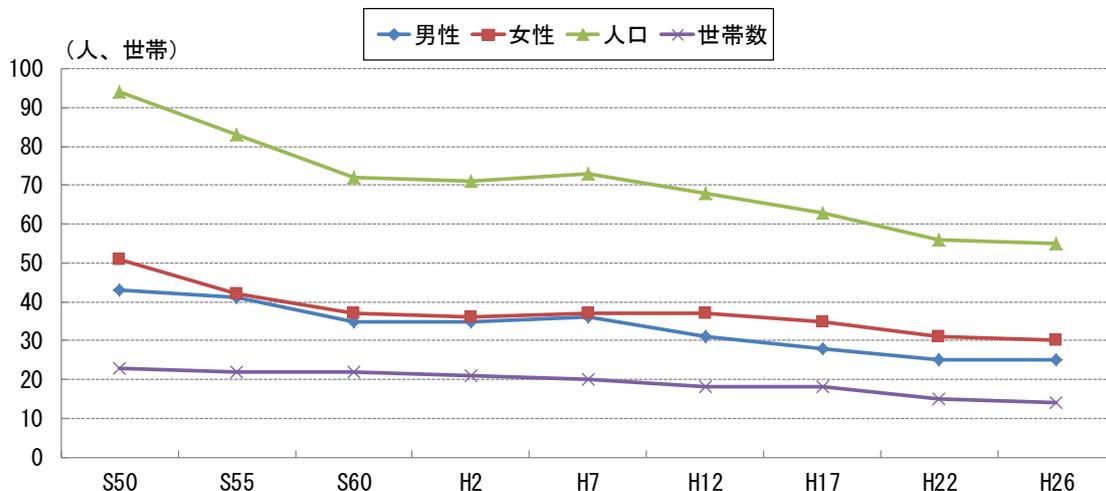


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	16	14	11	8	8	8	7	7	6
女性	14	13	9	10	7	6	8	8	6
人口	30	27	20	18	15	14	15	15	12
世帯数	9	9	8	8	8	7	7	7	6

## ㊸北野地区

北野は、人口数が村内で中位の地区です。昭和50年に比べ総人口は約42%（39人）減少、世帯数は約39%（9世帯）減少と、大きく変化しています。



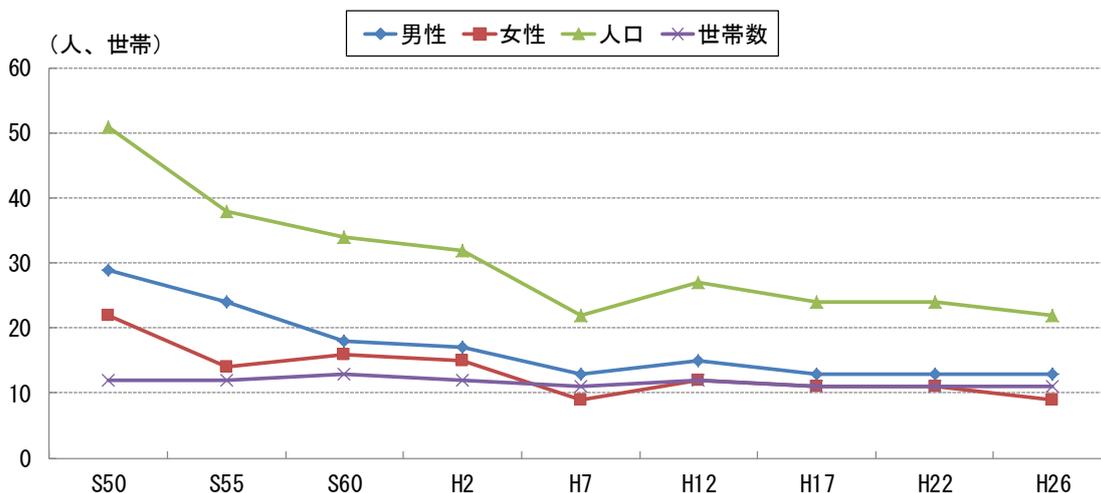
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	43	41	35	35	36	31	28	25	25
女性	51	42	37	36	37	37	35	31	30
人口	94	83	72	71	73	68	63	56	55
世帯数	23	22	22	21	20	18	18	15	14

## ㊸中野地区

中野は、比較的少人口の地区です。昭和50年に比べ総人口は約57%（29人）減少していますが、世帯数は1世帯減少に留まっています。



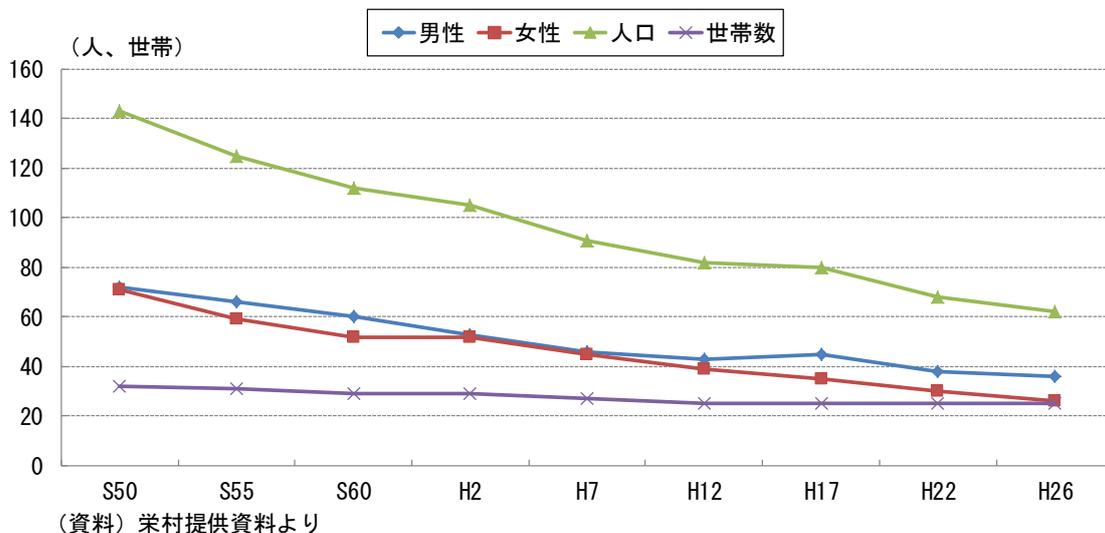
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	29	24	18	17	13	15	13	13	13
女性	22	14	16	15	9	12	11	11	9
人口	51	38	34	32	22	27	24	24	22
世帯数	12	12	13	12	11	12	11	11	11

## ②⑥ 極野地区

極野は、人口数が村内で中位の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 57%（81 人）減少、世帯数は約 22%（7 世帯）減少と、ともに共に大きく変化しています。

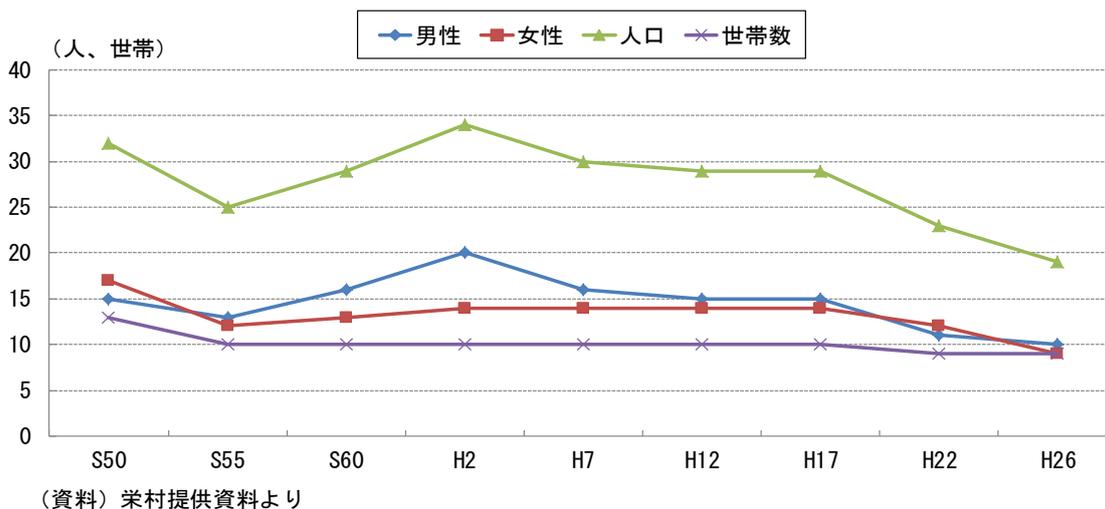


(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	72	66	60	53	46	43	45	38	36
女性	71	59	52	52	45	39	35	30	26
人口	143	125	112	105	91	82	80	68	62
世帯数	32	31	29	29	27	25	25	25	25

## ②⑦ 五宝木地区

五宝木は、比較的少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 41%（13 人）減少、世帯数は 4 世帯減少となっています。なお住所は五宝木にあるものの、冬期間は全世帯が森地区の村営住宅などに住んでいます。

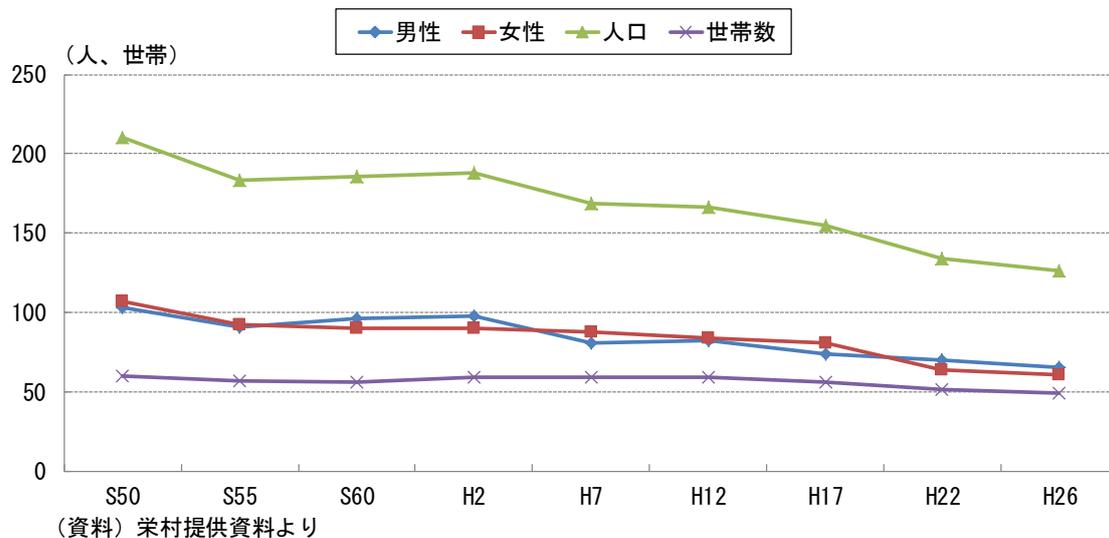


(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	15	13	16	20	16	15	15	11	10
女性	17	12	13	14	14	14	14	12	9
人口	32	25	29	34	30	29	29	23	19
世帯数	13	10	10	10	10	10	10	9	9

### ㊸小赤沢地区

小赤沢は、総人口の約6%を占める地区です。昭和50年に比べ総人口は40%（84人）減少、世帯数は約18%（11世帯）減少となっています。

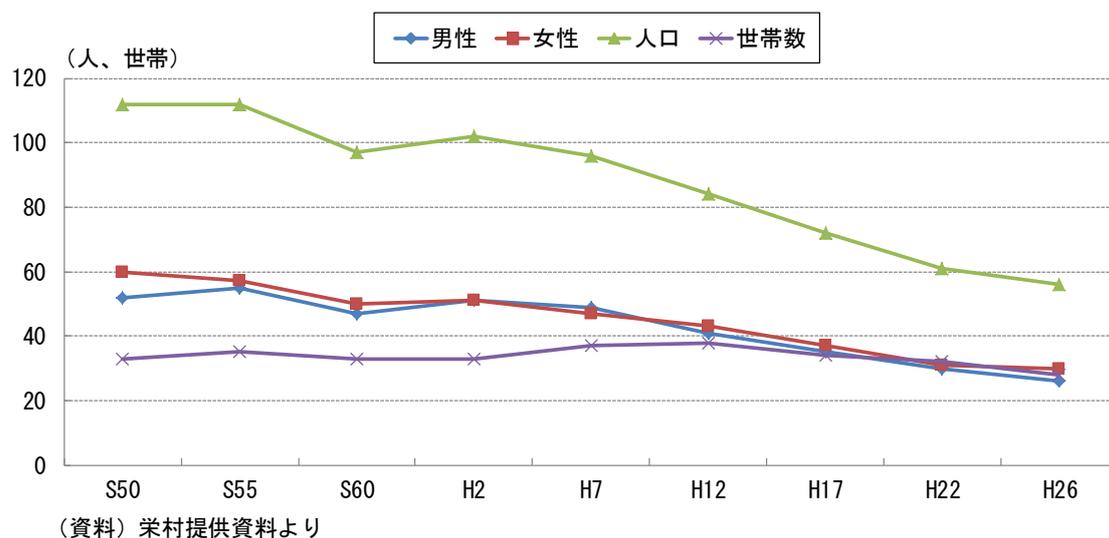


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	103	91	96	98	81	82	74	70	65
女性	107	92	90	90	88	84	81	64	61
人口	210	183	186	188	169	166	155	134	126
世帯数	60	57	56	59	59	59	56	51	49

### ㊹屋敷地区

屋敷は、村内での人口数が中位の地区です。昭和50年に比べ総人口は50%（56人）減少していますが、世帯数は約15%（5世帯）減少に留まっています。

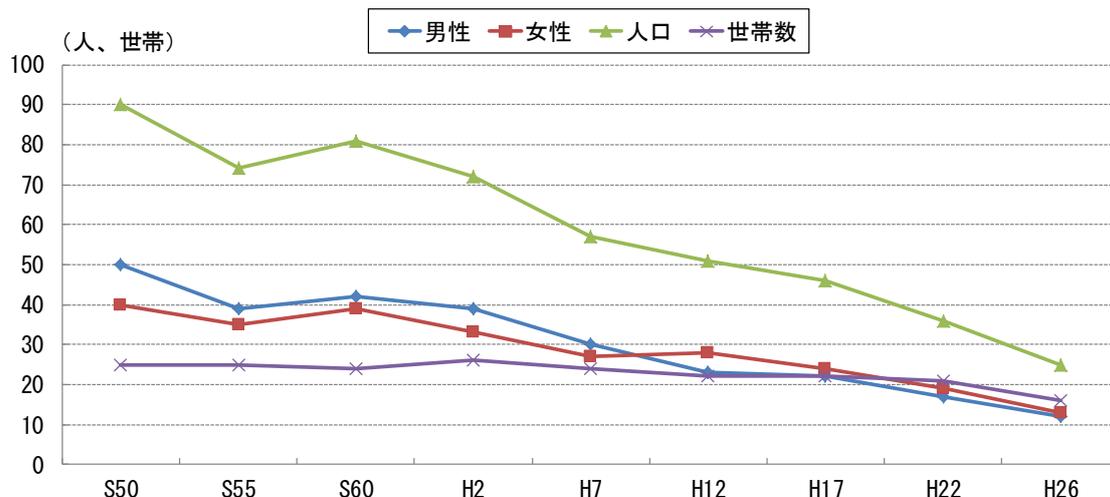


(単位:人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	52	55	47	51	49	41	35	30	26
女性	60	57	50	51	47	43	37	31	30
人口	112	112	97	102	96	84	72	61	56
世帯数	33	35	33	33	37	38	34	32	28

### ③⑩上野原地区

上野原は、比較的少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 72%（65 人）減少、世帯数は 36%（9 世帯）減少と、大きく変化しています。



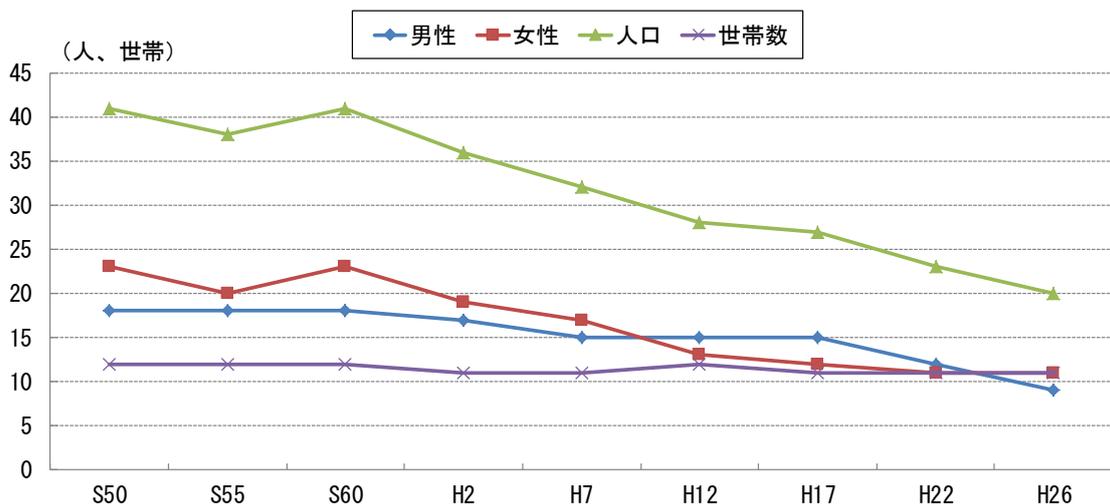
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	50	39	42	39	30	23	22	17	12
女性	40	35	39	33	27	28	24	19	13
人口	90	74	81	72	57	51	46	36	25
世帯数	25	25	24	26	24	22	22	21	16

### ③⑪和山地区

和山は、比較的少人口の地区です。昭和 50 年に比べ総人口は約 51%（21 人）減少していますが、世帯数は 1 世帯減少に留まっています。



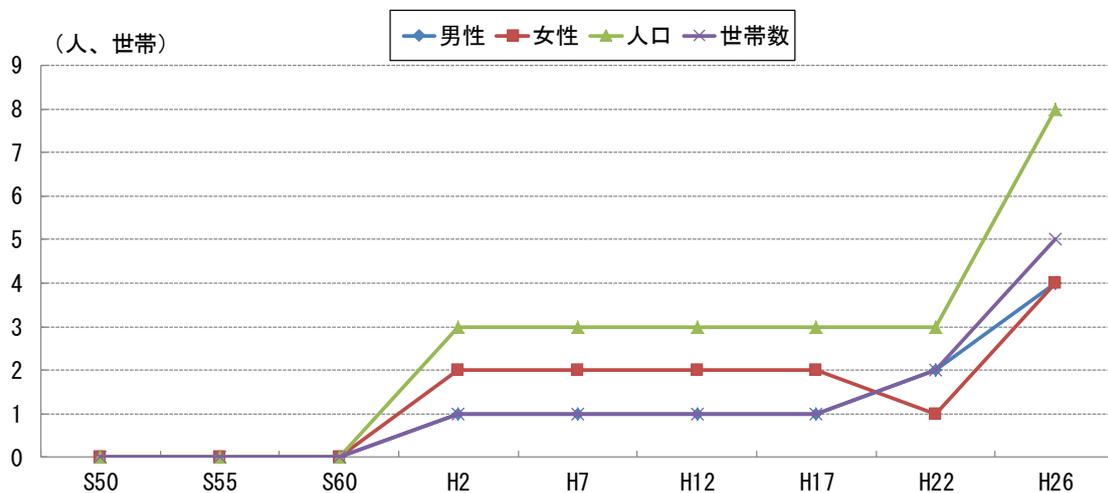
(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	18	18	18	17	15	15	15	12	9
女性	23	20	23	19	17	13	12	11	11
人口	41	38	41	36	32	28	27	23	20
世帯数	12	12	12	11	11	12	11	11	11

### ⑫切明地区

切明は、村内で2番目に人口の少ない地区です。切明には旅館3軒（民間2軒、村有1軒）があるだけで一般の住宅はありません。民間旅館の経営者や従業員が切明地区に住所を移したことによる増加です。



(資料) 栄村提供資料より

(単位: 人、世帯)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
男性	0	0	0	1	1	1	1	2	4
女性	0	0	0	2	2	2	2	1	4
人口	0	0	0	3	3	3	3	3	8
世帯数	0	0	0	1	1	1	1	2	5

【地区別総人口一覧】

(単位:人)

地区名	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
白鳥	294	263	246	225	238	233	207	188	176
平滝	303	291	263	249	237	220	203	239	239
横倉	165	147	149	145	141	153	148	137	135
青倉	285	258	209	200	165	152	153	142	133
森	370	338	313	288	272	257	255	239	202
泉平	112	106	96	89	85	76	73	69	63
箕作	258	240	229	208	199	180	159	139	123
月岡	251	233	229	212	206	182	168	142	119
小滝	108	90	82	82	72	62	56	51	41
野田沢	146	132	116	121	124	112	111	98	79
大久保	115	101	95	86	80	67	66	50	47
天地	13	12	12	12	12	13	12	12	12
塩尻	32	26	22	12	8	7	6	3	2
雪坪	55	44	35	42	41	39	36	34	31
志久見	185	154	126	123	121	110	104	90	75
柳在家	88	83	71	64	55	48	40	30	33
切欠	64	64	65	61	65	60	53	47	47
長瀬	162	148	135	129	123	104	95	86	95
原向	102	97	84	79	71	60	51	44	40
笹原	34	30	24	19	19	15	12	11	10
当部	27	22	15	13	12	14	14	11	9
坪野	78	75	70	58	56	43	33	29	14
天代	30	27	20	18	15	14	15	15	12
北野	94	83	72	71	73	68	63	56	55
中野	51	38	34	32	22	27	24	24	22
極野	143	125	112	105	91	82	80	68	62
五宝木	32	25	29	34	30	29	29	23	19
小赤沢	210	183	186	188	169	166	155	134	126
屋敷	112	112	97	102	96	84	72	61	56
上野原	90	74	81	72	57	51	46	36	25
和山	41	38	41	36	32	28	27	23	20
切明	0	0	0	3	3	3	3	3	8
合計	4050	3659	3358	3178	2990	2759	2569	2334	2130

【地区別世帯数一覧】

(単位:世帯)

地区名	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
白鳥	79	78	76	70	80	77	72	70	68
平滝	77	74	74	72	69	67	64	121	137
横倉	43	40	39	40	40	49	45	43	46
青倉	65	65	64	64	60	59	59	62	57
森	103	99	93	91	86	89	85	94	82
泉平	27	26	25	25	26	25	25	24	23
箕作	58	56	58	55	54	54	51	48	48
月岡	65	66	63	58	58	53	54	50	44
小滝	22	22	20	20	20	20	18	20	13
野田沢	38	37	36	34	36	33	32	32	29
大久保	30	29	26	25	24	25	25	23	22
天地	3	3	3	3	3	3	4	4	4
塩尻	7	7	7	5	4	3	3	3	2
雪坪	13	13	12	12	12	12	12	11	12
志久見	48	48	45	42	42	41	42	39	35
柳在家	22	21	21	21	20	19	19	17	15
切欠	15	14	14	13	14	14	13	13	14
長瀬	48	44	40	37	38	30	31	27	33
原向	23	23	23	23	23	22	23	22	21
笹原	7	7	7	7	7	6	5	5	5
当部	7	6	6	6	6	7	7	7	6
坪野	22	22	22	19	19	17	13	13	7
天代	9	9	8	8	8	7	7	7	6
北野	23	22	22	21	20	18	18	15	14
中野	12	12	13	12	11	12	11	11	11
極野	32	31	29	29	27	25	25	25	25
五宝木	13	10	10	10	10	10	10	9	9
小赤沢	60	57	56	59	59	59	56	51	49
屋敷	33	35	33	33	37	38	34	32	28
上野原	25	25	24	26	24	22	22	21	16
和山	12	12	12	11	11	12	11	11	11
切明	0	0	0	1	1	1	1	2	5
合計	1041	1013	981	952	949	929	897	932	896

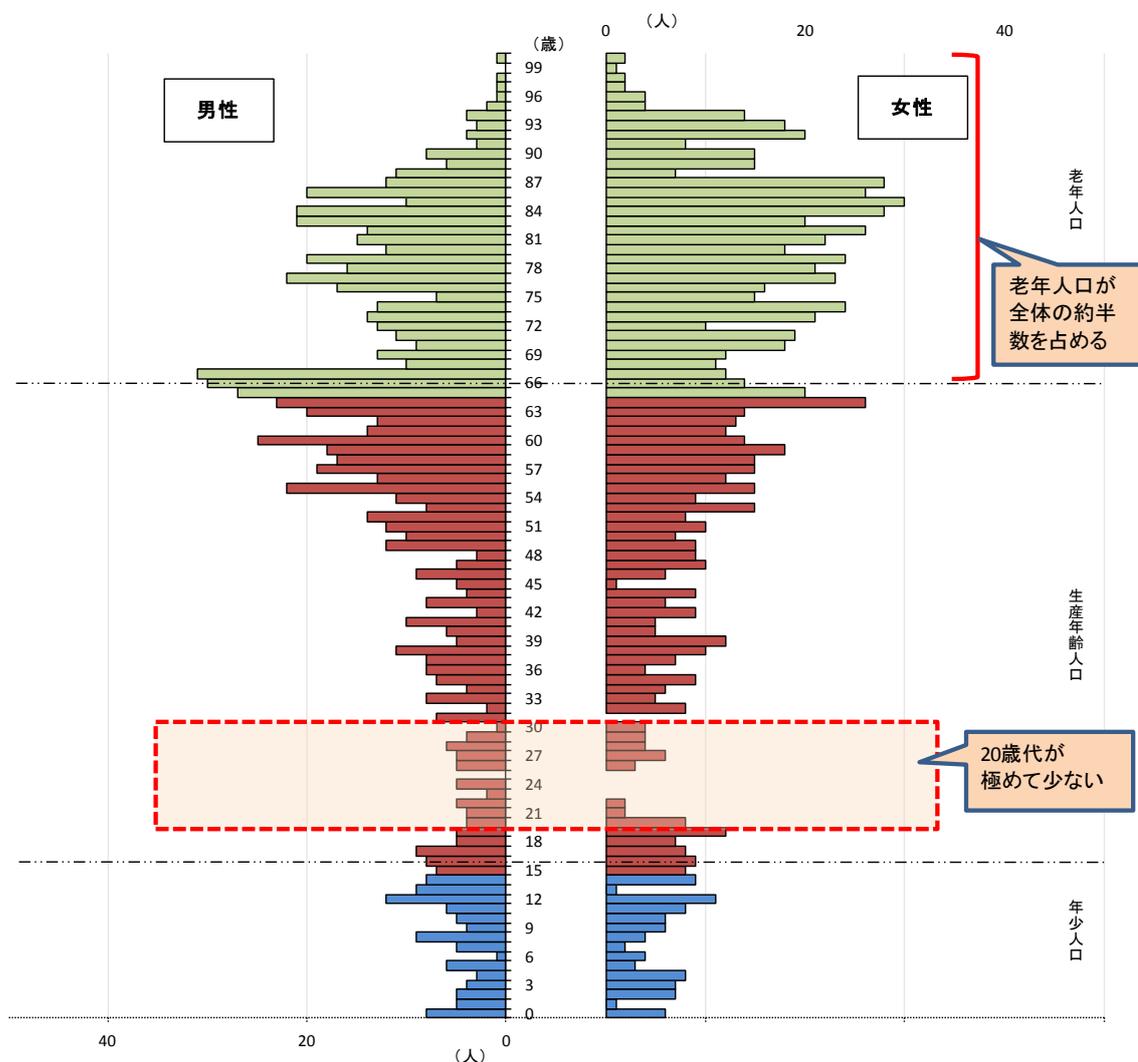
## 2. 年齢別人口

### (1) 人口ピラミッド

栄村の人口ピラミッドは、第一次ベビーブームの世代（段階の世代）が65歳を超え、65歳以上の老年人口が総人口の約半数を占めており、超高齢社会が到来しています。加えて、生産年齢人口、年少人口が極めて少なく、ピラミッドの形が逆三角形となっており、少子化に歯止めがかからない状況を示しています（図表3）。

また、生産年齢人口のなかでも、20歳代の人口が極端に少ないことから、大学進学や就職等で村外へ転出した後、栄村に戻ってきていない若者が多いのではないかと考えられます。

図表3 栄村の人口ピラミッド（平成26年10月1日現在）



(資料)長野県「毎月人口異動調査」

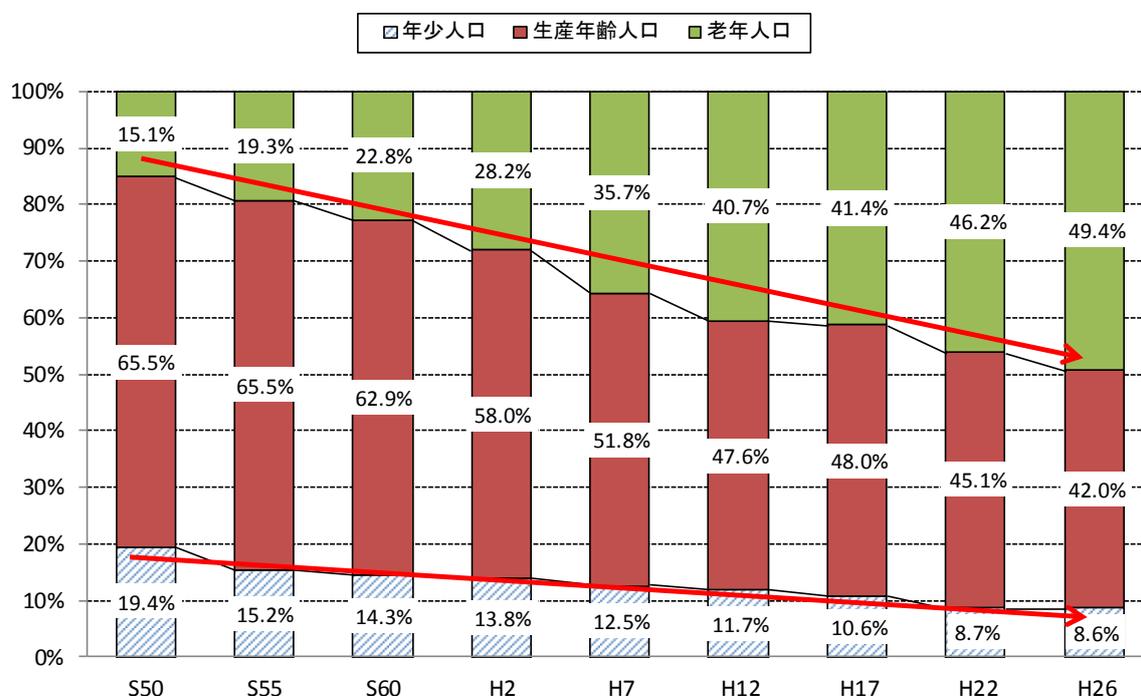
## (2) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口を見た場合、年少人口及び生産年齢人口の割合は減少傾向、老年人口の割合は増加傾向が続いています（図表4）。

約20年間のトレンドで見た場合、老年人口の割合は、平成7年には35.7%でしたが、平成26年には49.4%と約13.7ポイント増加しています。年少人口の割合は、平成7年は12.5%でしたが、平成26年には8.6%と、3.9ポイント減少しています。生産年齢人口も同様に、平成7年には51.8%ありましたが、平成26年には42.0%と9.8ポイントも減少しています。両人口区分を合計した割合は平成7年の64.3%から平成26年の50.6%になり、13.7ポイントの減少が見られます。

以上のことから、栄村では急速に高齢化が進み、老年人口が村の総人口の約半分を占める状態が分かります。また、村の人口総数そのものが減少しているため、年少人口および生産年齢人口の人数も非常に少なくなっています。

図表4 年齢3区分人口の構成比の推移



(資料)総務省統計局「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」

(単位：人、%)

	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H26
総数	3,884	3,502	3,284	3,053	2,896	2,638	2,488	2,215	2,011
年少人口	753	533	468	421	363	308	264	193	173
生産年齢人口	2,545	2,293	2,067	1,771	1,499	1,257	1,195	999	845
老年人口	586	676	749	861	1,034	1,073	1,029	1,023	993
年少人口	19.4%	15.2%	14.3%	13.8%	12.5%	11.7%	10.6%	8.7%	8.6%
生産年齢人口	65.5%	65.5%	62.9%	58.0%	51.8%	47.6%	48.0%	45.1%	42.0%
老年人口	15.1%	19.3%	22.8%	28.2%	35.7%	40.7%	41.4%	46.2%	49.4%

### 3. 人口動態

#### (1) 自然動態

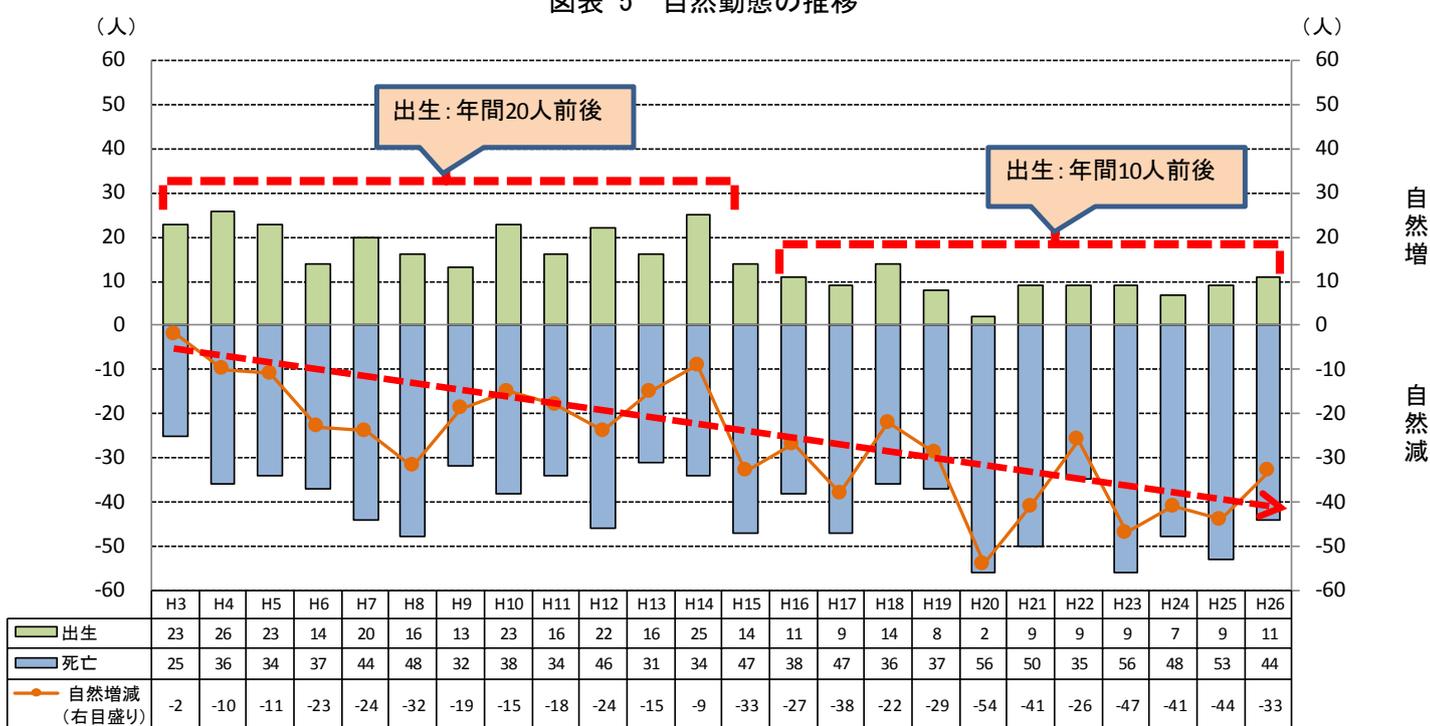
##### ①自然動態の推移

自然動態は平成3年以降、常に死亡者数が出生者数を上回っており、自然減少数が拡大傾向にあります(図表5)。

出生者数と死亡者数を個別にみると、出生者数は平成3年から平成14年までは、おおむね年間20人前後でしたが、平成16年以降は年間10名前後となっており、平成20年のように極端に出生者数が少ない年も見られます。

出生者数が少数で推移している中、死亡者数が増加傾向にあることから、今後も自然動態が増加に転じるのは難しいと考えられます。

図表5 自然動態の推移

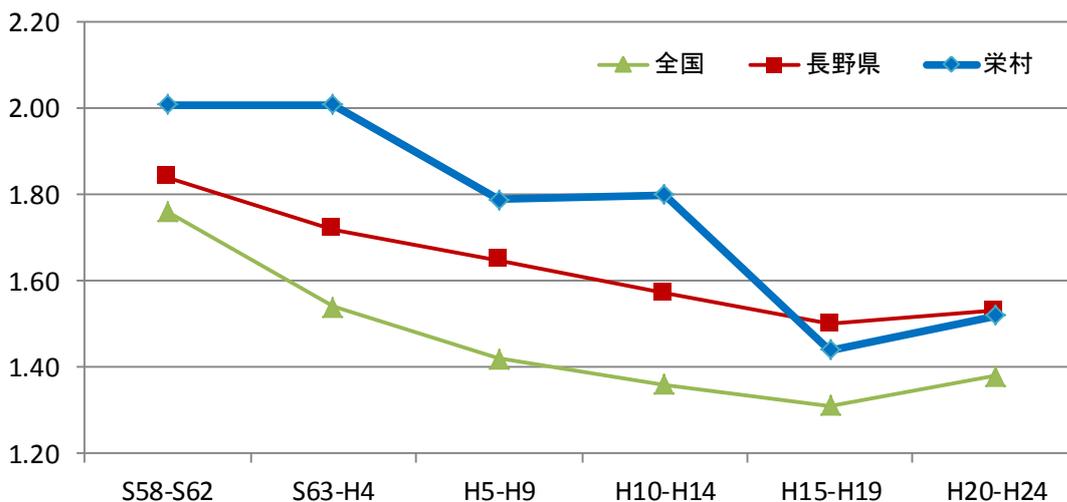


(資料)長野県「毎月人口異動調査」

## ②合計特殊出生率の推移

栄村の合計特殊出生率を5年毎推移で見ると、平成15年以前までは全国及び長野県を大きく上回っていましたが、平成15年以降は長野県とほぼ同程度の水準となっています。(図表6)。また、単年度で見た場合、平成24年、平成25年については県や全国の平均を大きく上回っています(図表7)。栄村は出生率計算上の分母となる女性の人数が少ないため、出生率が人口の自然増に与える影響は限定的かもしれませんが、出生率の高い村というプラスイメージを高めるためにも、今後も高水準を維持していくことは重要です。

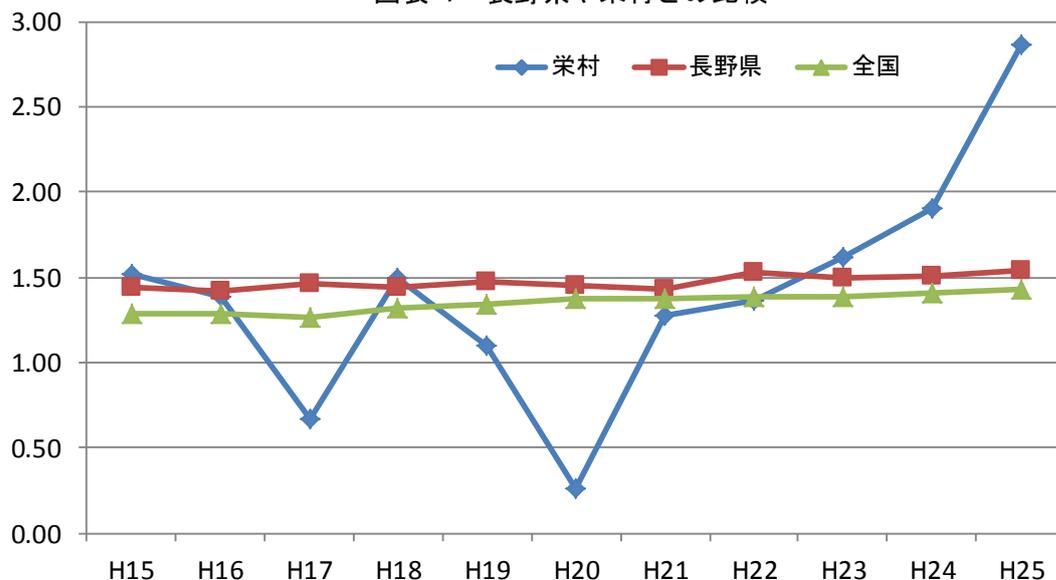
図表6 合計特殊出生率の推移



(資料)人口動態保健所・市町村別統計

※ベイズ推定値、但し全国のS58～H14は、各期間の中央の年次における値

図表7 長野県や栄村との比較



(資料)厚生労働省「人口動態調査」、長野県「毎月人口異動調査」

## (2) 社会動態

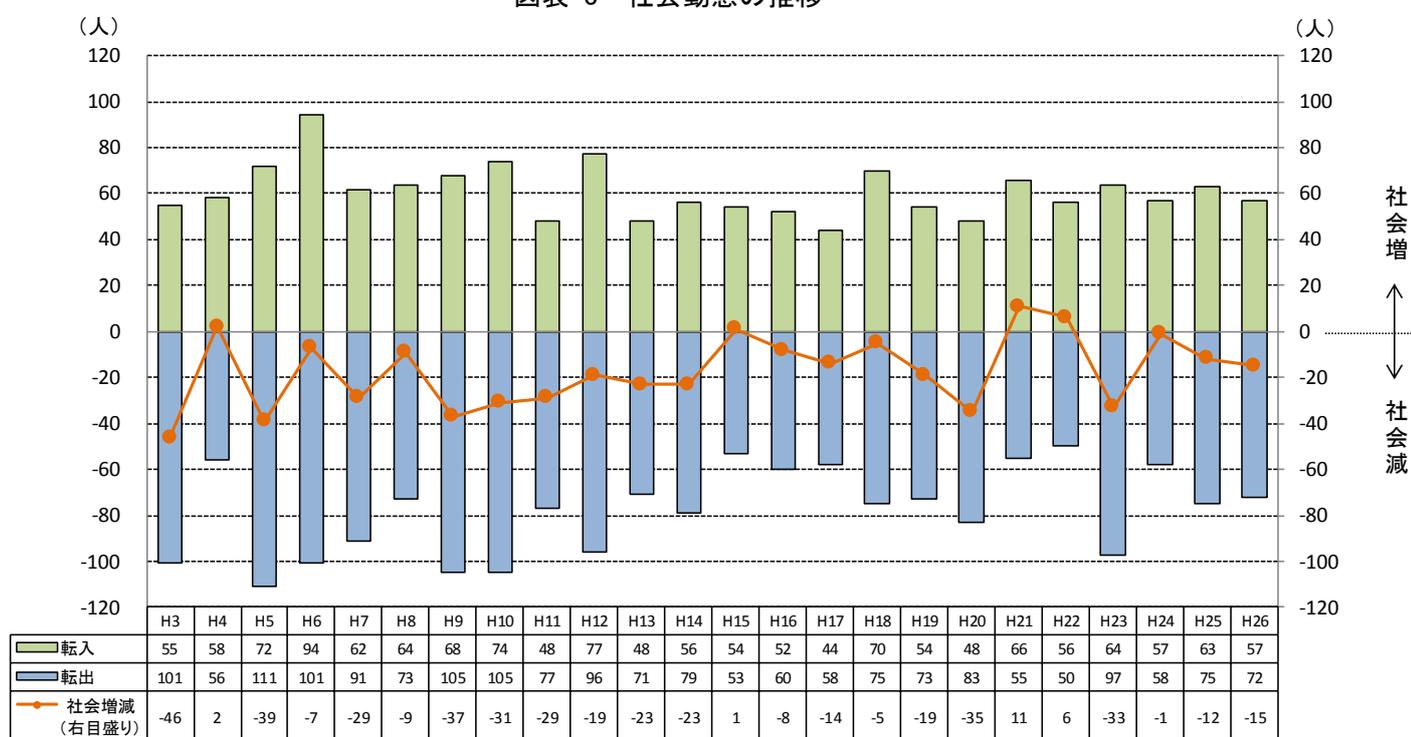
### ①社会動態の推移

社会動態は一部転入超過となる年が見られるものの、おおむね一貫して社会減で推移しています（図表 8）。

転入者数と転出者数を個別にみると、転入者数は平成 22 年以降、60 名前後で推移しています。また転出者数も年によって大きなばらつきがありますが、年平均 70 名程で推移しています。

今後は定住・移住策等でいかに転入者を増やすかが重要となってきます。住民にとって住みよいむらづくりを行うなど、いかにして村内への転入者を増加させるかが重要となります。

図表 8 社会動態の推移



(資料)長野県「毎月人口異動調査」

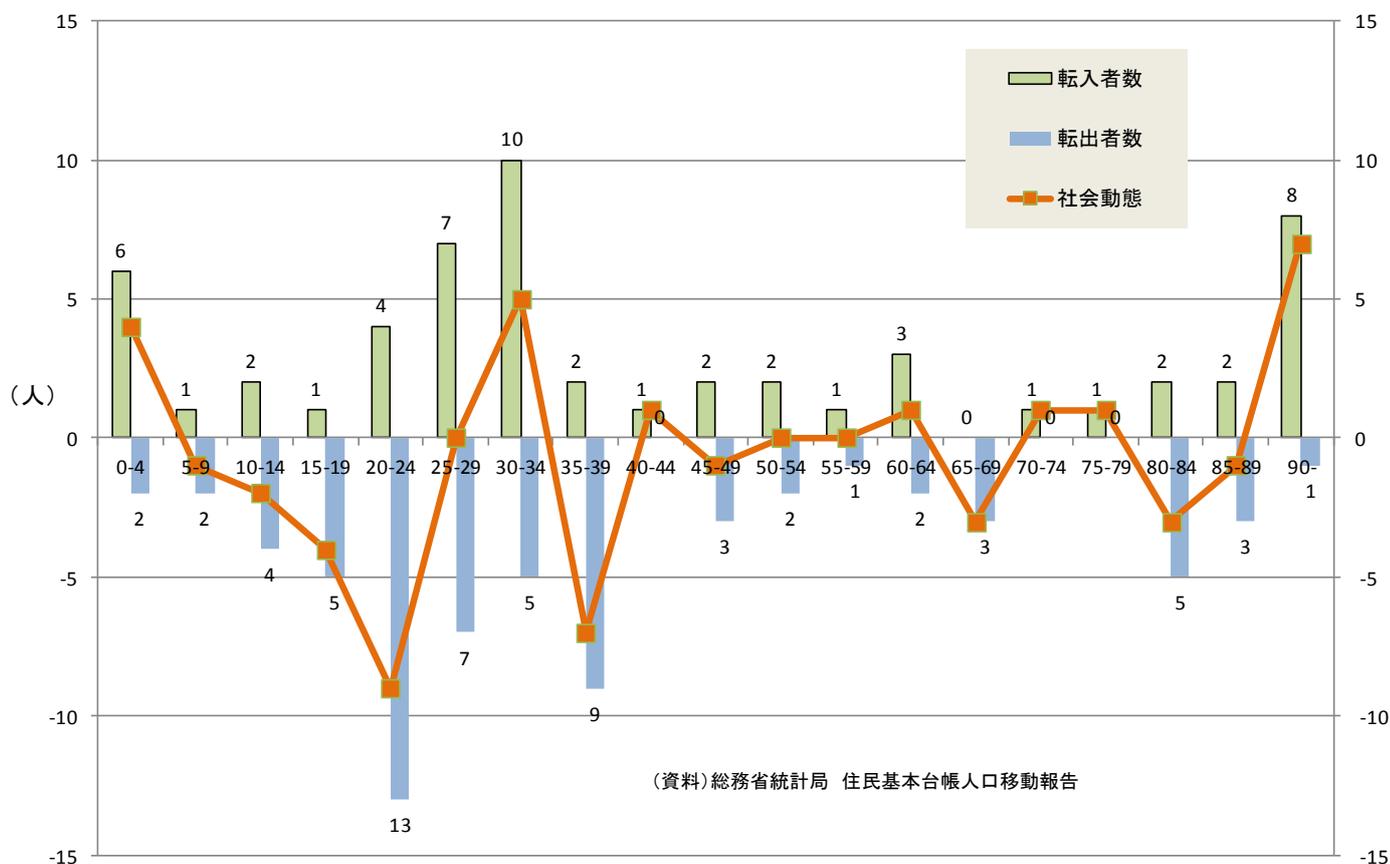
## ②年齢別社会動態（平成 26 年 5 歳階級別）

転入者数と転出者数を個別にみると、転入者は 30 歳～34 歳が 10 人と最も多く、次いで 90 歳以上（8 人）、25 歳～29 歳（7 人）と、転入者の多くが 20 歳後半から 30 歳前半の若者で占められています（図表 9）。90 歳以上の転入者は村外から特別養護老人ホームへの入居者と考えられます。

一方、転出者は、20 歳～24 歳が 13 人と最も多く、次いで 35 歳～39 歳（9 人）、25 歳～29 歳（7 人）と、転出者の大半も 20 歳代と 30 歳代の若者で占められています。

また年齢別社会動態は 30 歳～34 歳で転入増が見られるものの、10 歳～25 歳までで大きな社会減の傾向が見られます。この年齢層の社会減をいかに抑えるか、もしくは、転出したこの年齢層をいかに呼び戻すかが重要となってきます。

図表 9 年齢別社会動態（平成 26 年 5 歳階級別）



総務省統計局 住民基本台帳移動報告より

(単位:人)

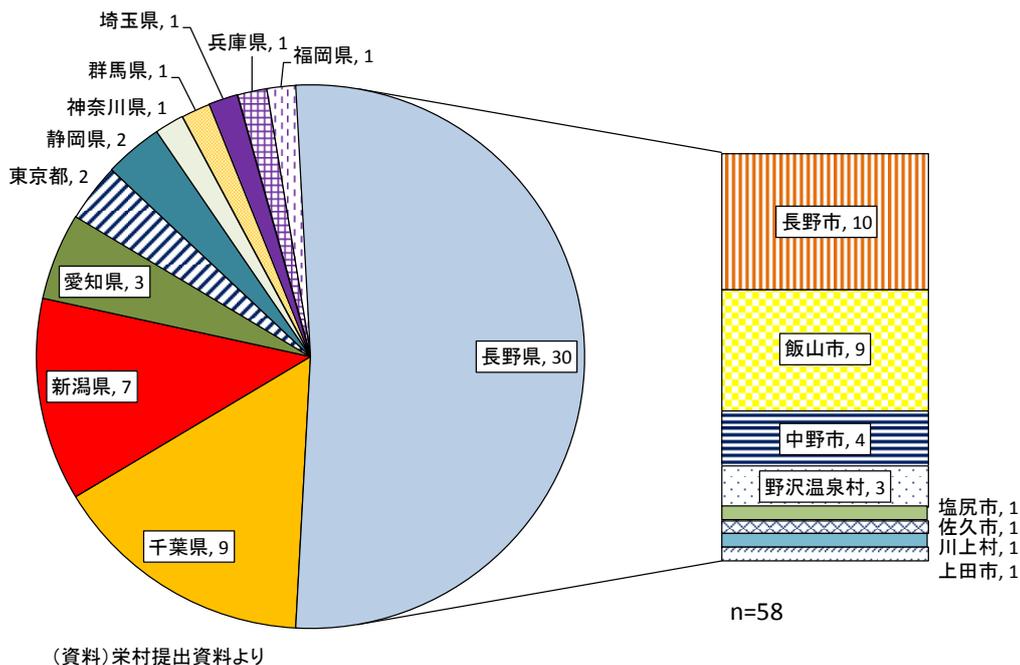
年齢	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-	総数
転入者数	6	1	2	1	4	7	10	2	1	2	2	1	3	0	1	1	2	2	8	56
転出者数	2	2	4	5	13	7	5	9	0	3	2	1	2	3	0	0	5	3	1	57
社会動態	4	-1	-2	-4	-9	0	5	-7	1	-1	0	0	1	-3	1	1	-3	-1	7	58

### ③転入者・転出者の居住地内訳

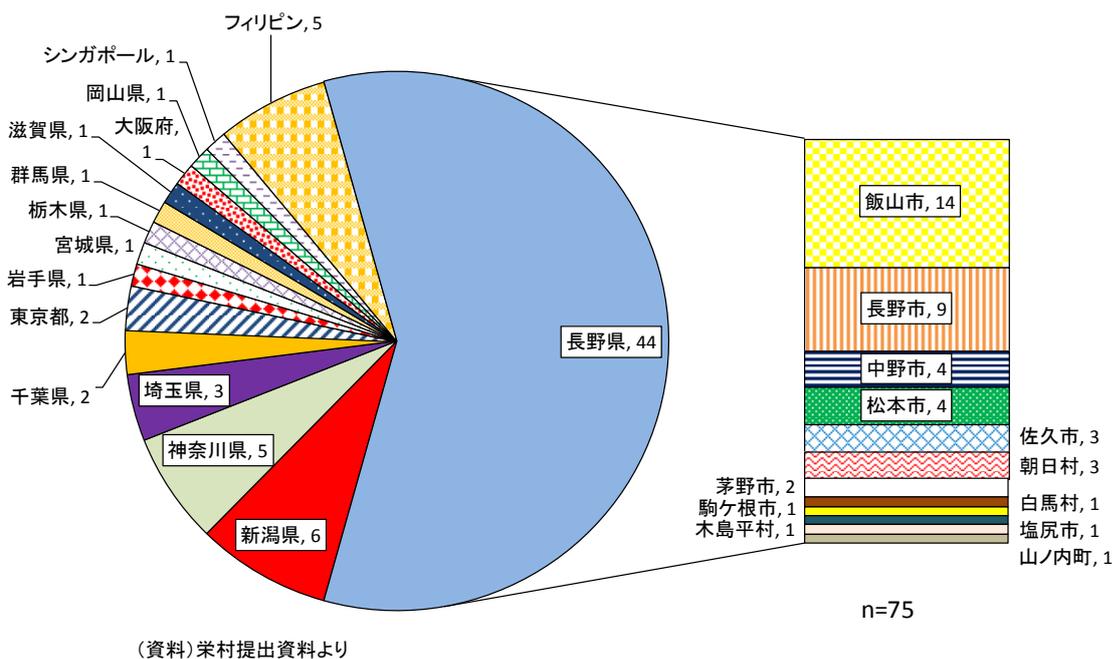
栄村への転入者の内訳としては、長野県内と県外の割合がそれぞれ 51.7% (30 人) と 48.3% (28 人) であり、半分強が長野県内からであることがわかります (図表 10)。また、県内からの転入者のうち、その 63.3% (全体としては 32.8%) が長野市と飯山市からの転入者です。

一方、転出者においては、長野県内と県外の割合は 58.7% (44 人) と 41.3% (31 人) で、大半が長野県内への転出者となります (図表 11)。

図表 10 転入者の県内・県外別 (平成 26 年)



図表 11 転出者の県内・県外別 (平成 26 年)

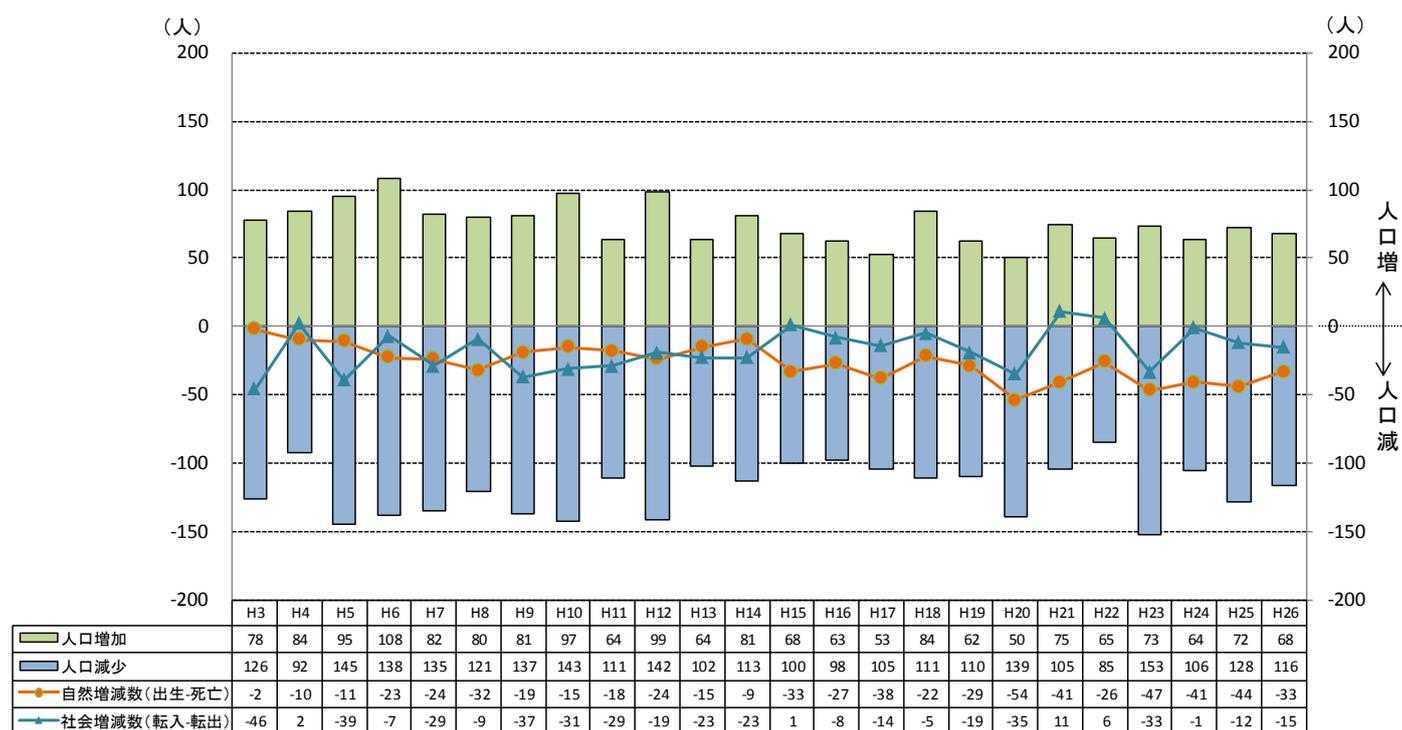


### (3) 人口動態の推移

#### ①自然増減と社会増減による人口動態の推移

栄村の人口動態の内訳としては、自然動態、社会動態共に減少が続いていることが分かります(図表 12)。また、平成 15 年以降は自然減が社会減を上回っています。高齢者の割合が多いため、自然増に転じるのは困難な状況です。社会動態については、増加あるいはほぼ増減なしの年も見るすることができます。

図表 12 人口動態の推移



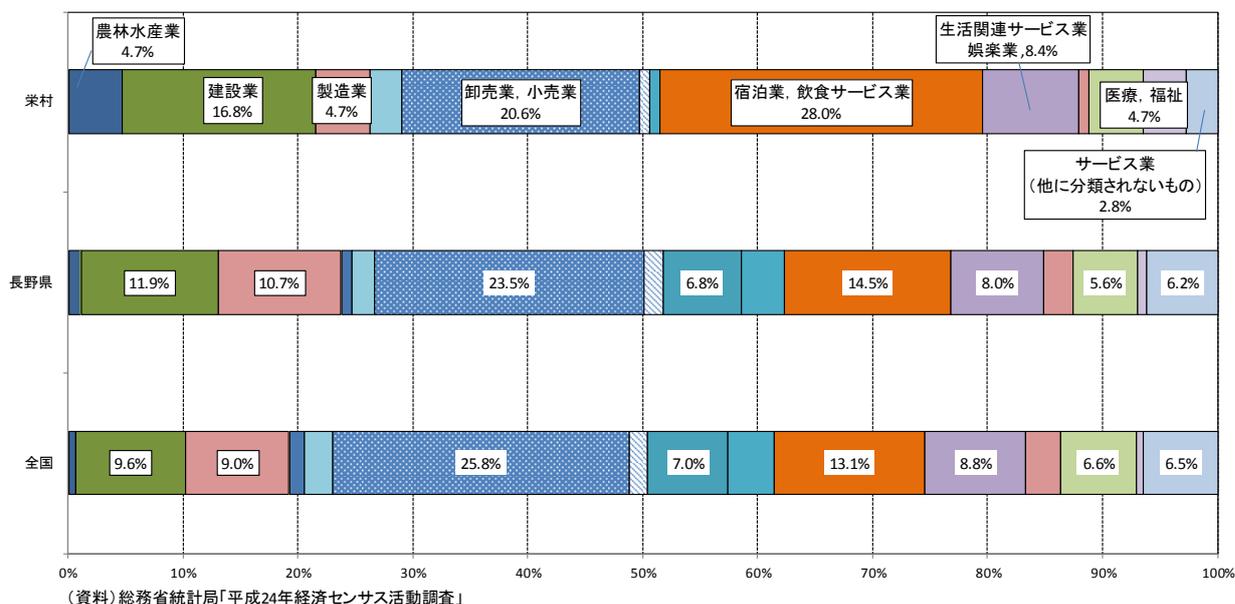
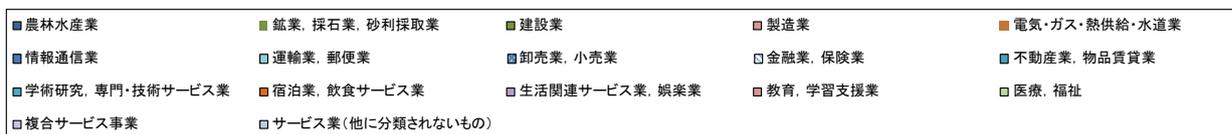
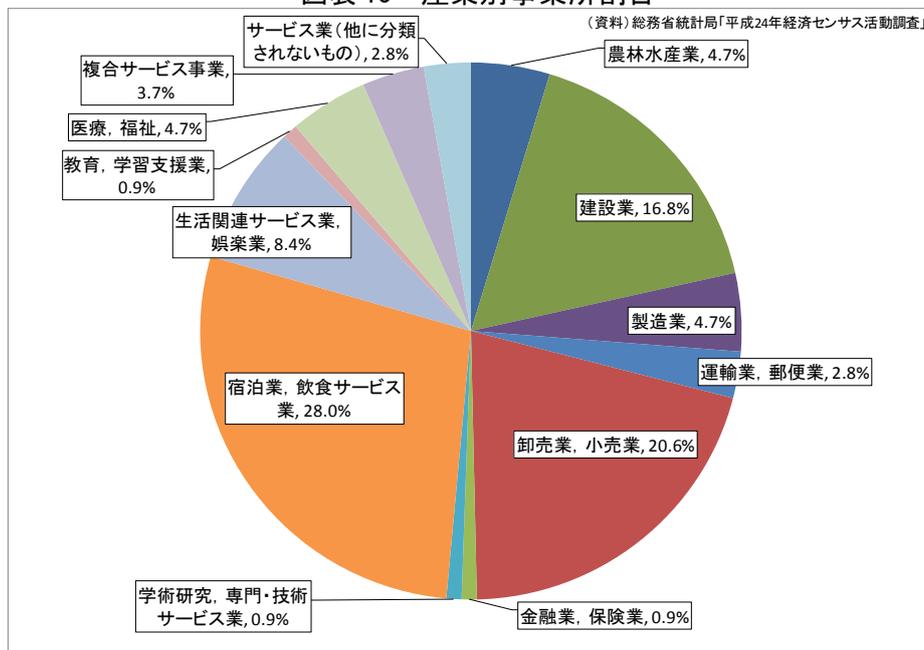
(資料)長野県「毎月人口異動調査」

#### (4) 産業別就業者

##### ①産業別事業数

産業別事業所数は宿泊業・飲食サービス業の割合が28.0%と最も高く、次いで卸売業・小売業が20.6%、建設業16.8%となっています(図表13)。また宿泊業・飲食サービス業の割合は全国(+14.9ポイント)や長野県(+13.5ポイント)を大きく上回っています。

図表13 産業別事業所割合

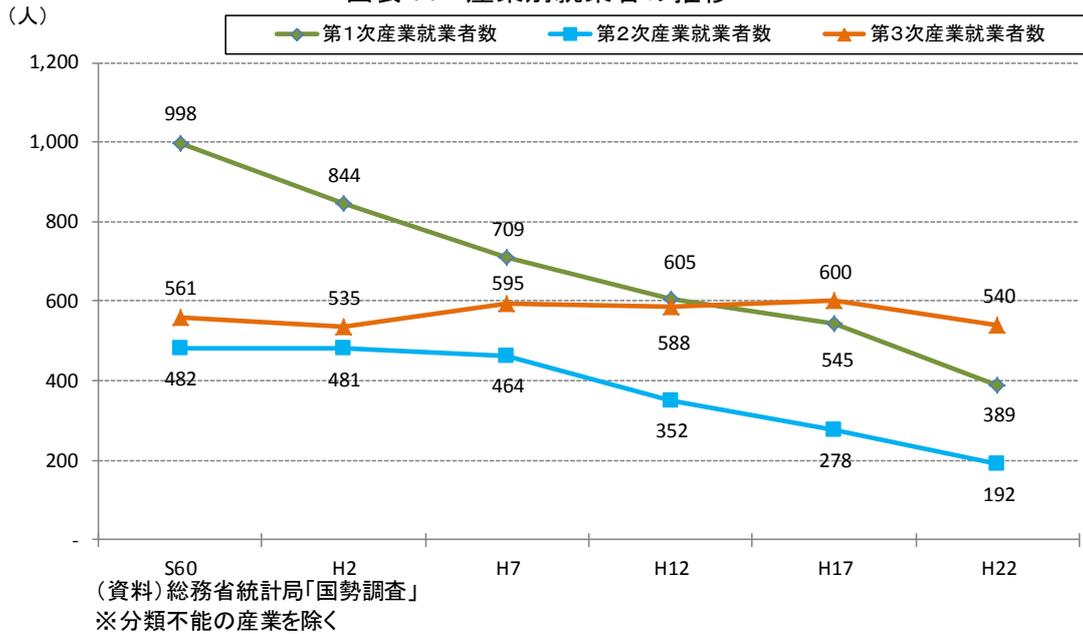


## ②産業別就業者の推移

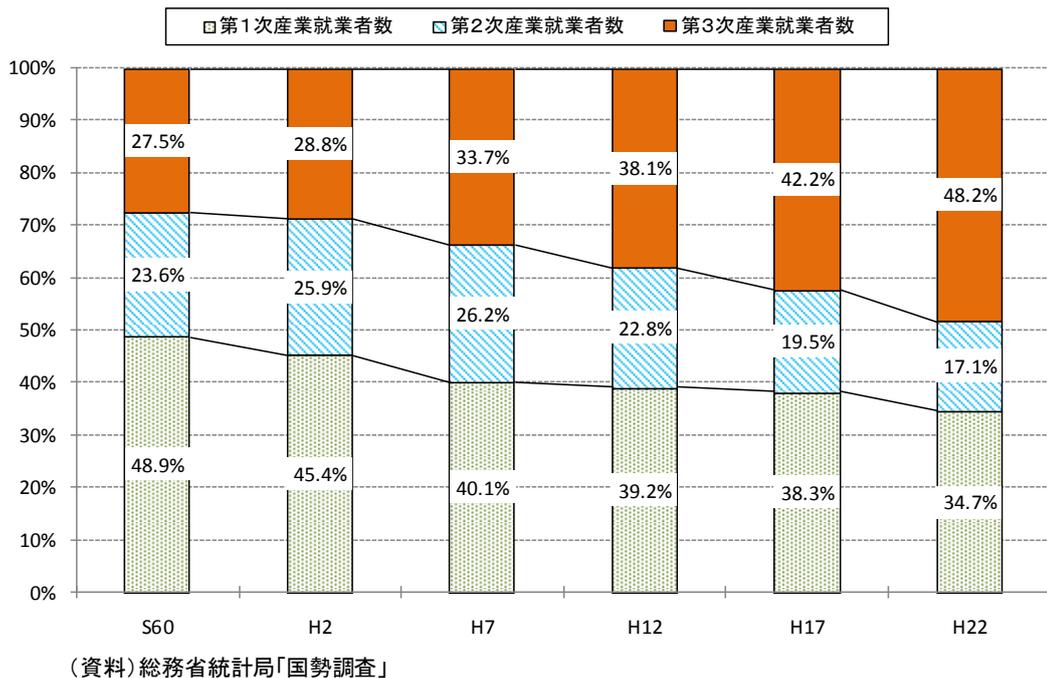
第1次産業および第2次産業の就業者数は減少が続き、昭和60年調査時と比較して人数は半分以下になりました。それに対して、第3次産業の就業者数は、ほぼ横ばいで推移しています（図表14）。

したがって、割合としては相対的に第3次産業が増加し、村の就業者人口の48.2%を占めている状態です。昭和60年には第1次産業が48.9%を占めていましたので、約25年間で就業者割合の構造が入れ替わった状態が分かります（図表15）。

図表14 産業別就業者の推移



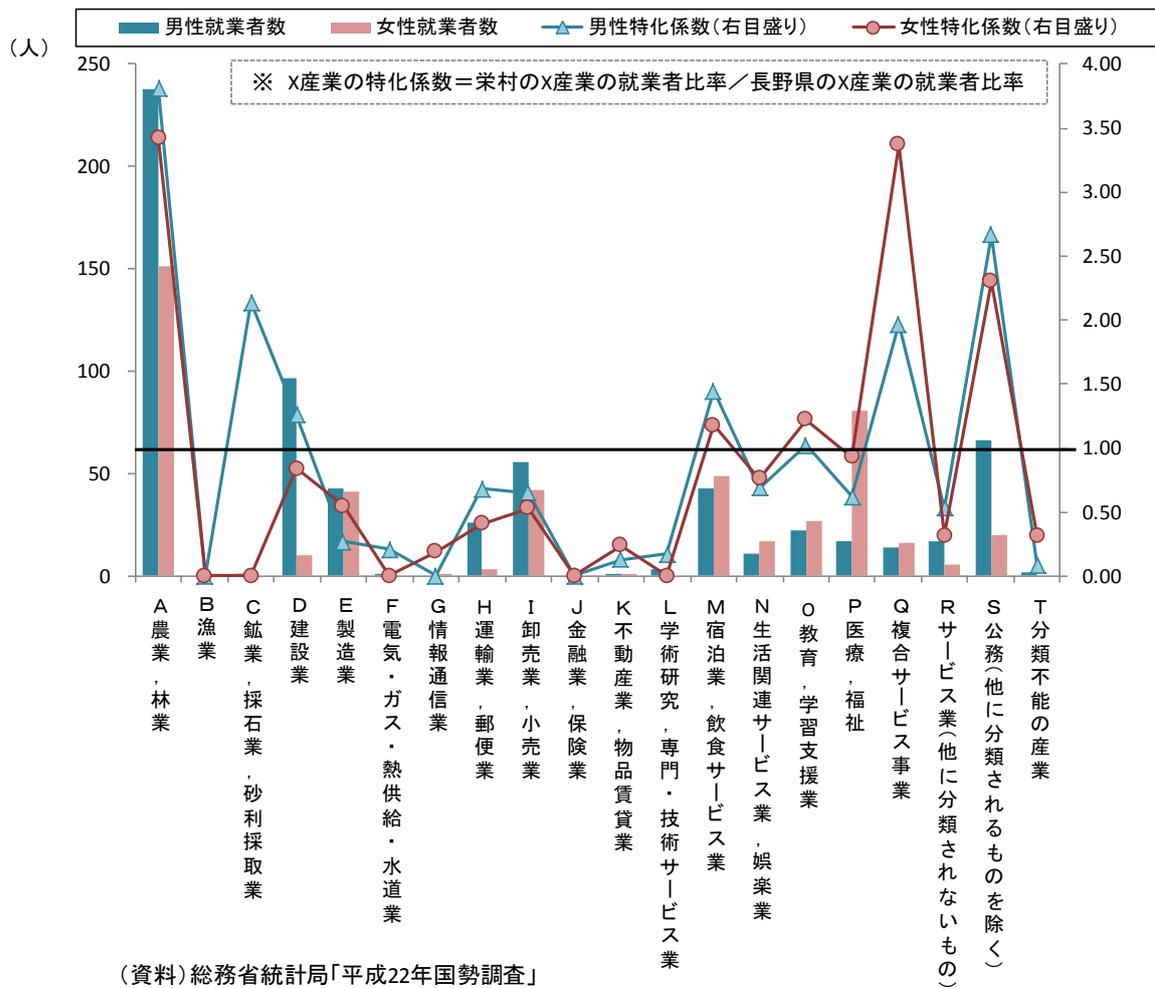
図表15 産業別就業割合の推移



### ③産業別就業者構成比

男女共に農林業の従事者数が最も多く、次いで男性は建設業、女性は医療福祉の人数が多くなっています。特化係数を見ても農業は男女共に最も高く、村の中心産業となっていることが分かります(図表 16)。しかし専業で農業を行う若い人は少なく、農業従事者の高齢化が進んでいます。

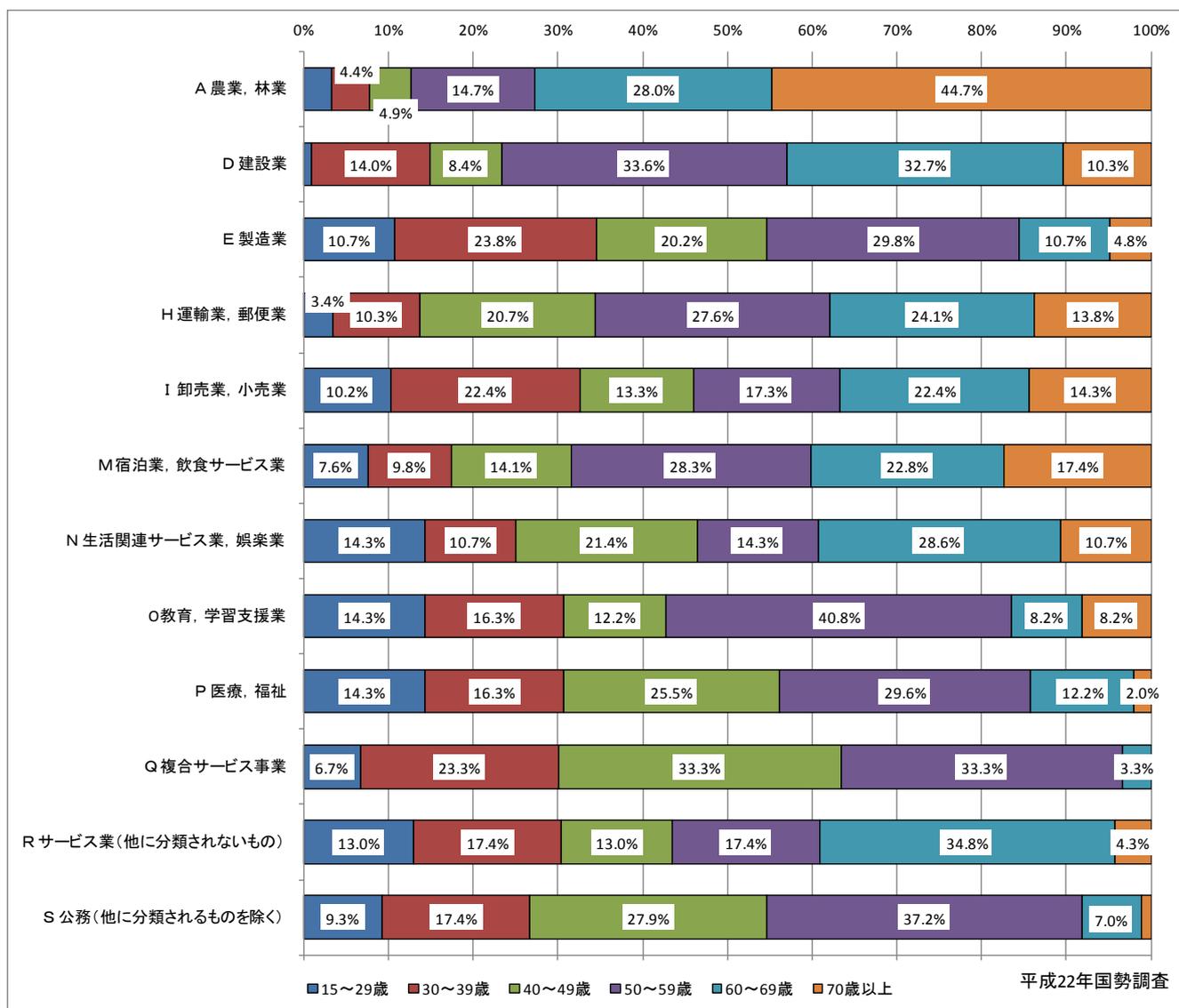
図表 16 男女別産業大分類別人口



#### ④年齢階級別産業人口

農業・林業は就業人口も特化係数も最も大きく、栄村の中心産業となっていました。年齢階級を見ると、60歳以上が7割以上を占めています。製造業、卸売業・小売業は他の産業に比べて40歳以下の年齢層が比較的厚くなっています。

図表 17 年齢階級別産業人口



## 第2章 人口の推計

### 1. 総人口・年齢区分別人口の推計

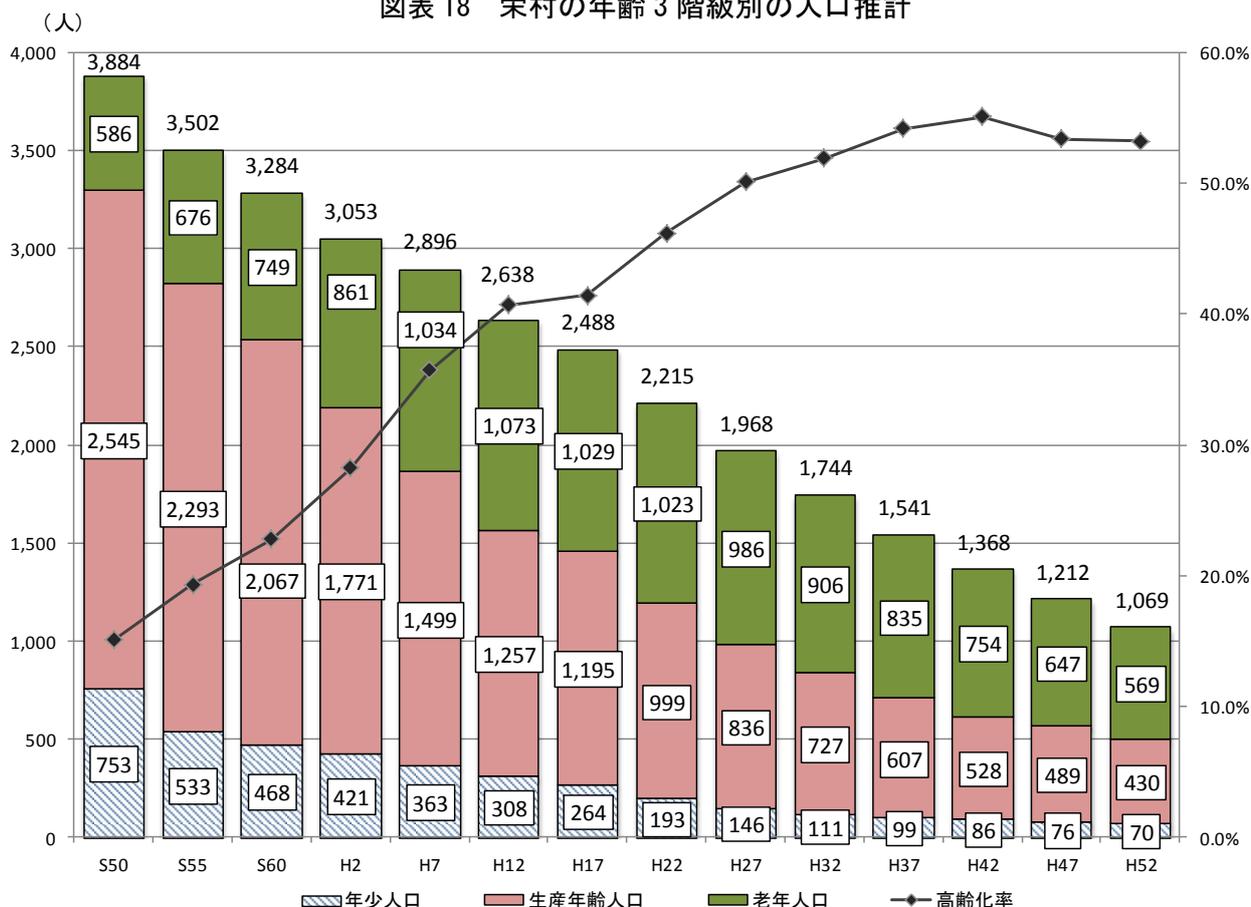
平成22年国勢調査を基本とした平成25年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の統計情報を活用し総人口を推計すると以下のとおりとなります（図表18）。

人口は減少傾向が続き、直近（平成22年）で約2,200人あった人口も、平成42年には1,500人を割り込み、平成52年には約1,000人まで減少すると推計されます。

さらに年齢3区分人口の推計をみると、直近（平成22年）に約1,000人いた生産年齢人口（15歳～64歳）は、平成52年には430人まで減少しています。また幼年人口も同様に約70人に減少しています。

一方高齢化率は、平成42年にピークを迎えた後は、微減・横ばい傾向となっています。しかしながら、人口そのものが極端に減少していますので、産業のみならず、地域活動そのものの衰退につながる可能性があります。こうした問題に対して、栄村の特性を活かし、いかに人口を維持していくかが重要となります。

図表18 栄村の年齢3階級別の人口推計



（資料）総務省統計局「国勢調査」、長野県「毎月人口異動調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」